

2 障害児

(1) 回答者

問1 この調査票はどなたが記入されますか。(1つに○)

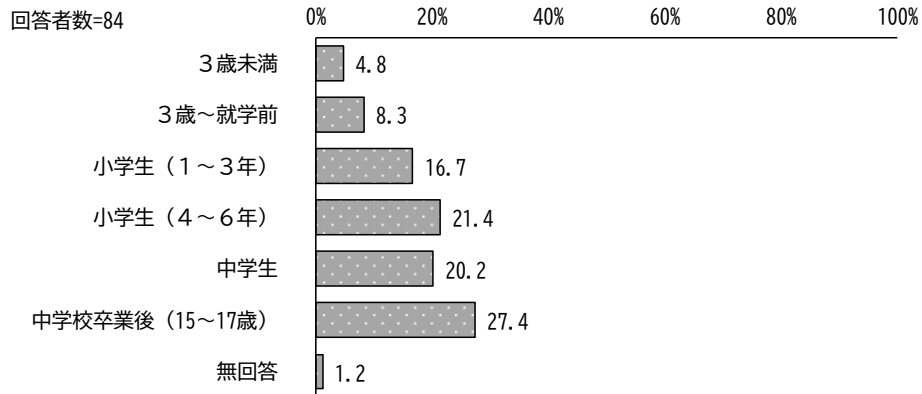
調査票の記入者については、「保護者」の割合が95.2%、「保護者以外の家族」の割合が1.2%となっています。



(2) 回答者属性

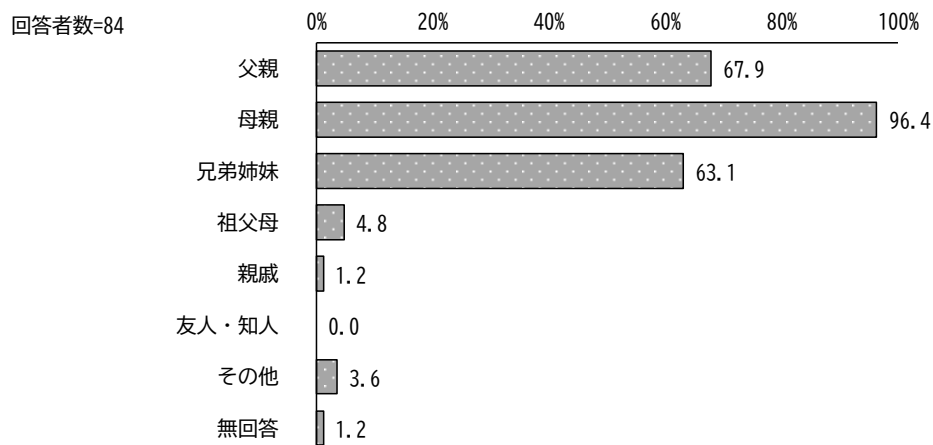
問2 お子さんの年齢区分は次のうちどれですか。(1つに○)

お子さんの年齢区分については、「中学校卒業後(15~17歳)」の割合が27.4%と最も多く、次いで「小学生(4~6年)」の割合が21.4%、「中学生」の割合が20.2%となっています。



問3 お子さんと一緒に暮らしている方は、どなたですか。(あてはまる番号すべてに○)

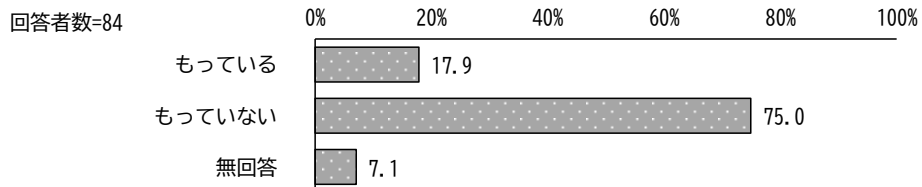
お子さんと一緒に暮らしている方については、「母親」の割合が96.4%と最も多く、次いで「父親」の割合が67.9%、「兄弟姉妹」の割合が63.1%となっています。



問4 次の手帳又は医療券をお持ちですか。

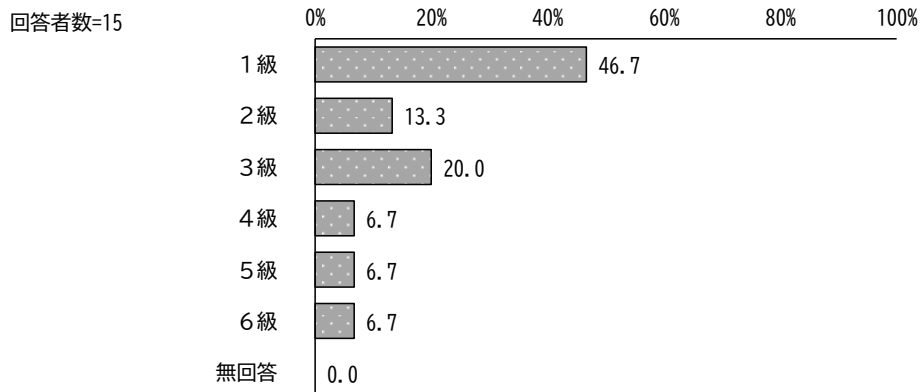
(1) 身体障害者手帳 [1つに○]

身体障害者手帳については、「もっている」の割合が17.9%、「もっていない」の割合が75.0%となっています。



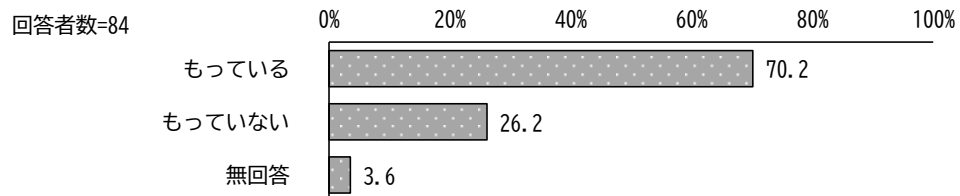
等級

障害者手帳の等級については、「1級」の割合が46.7%と最も多く、次いで「3級」の割合が20.0%、「2級」の割合が13.3%となっています。



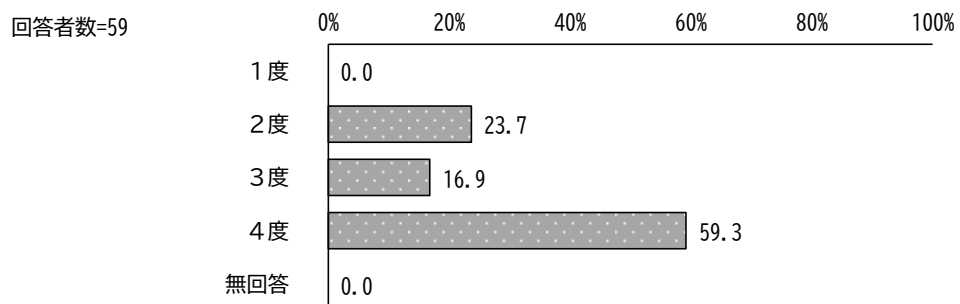
(2) 愛の手帳 (1つに○)

愛の手帳については、「もっている」の割合が 70.2%、「もっていない」の割合が 26.2%となっています。



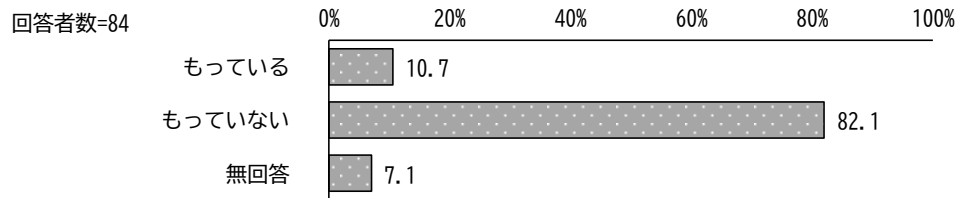
等級

愛の手帳の等級については、「4度」の割合が 59.3%と最も多く、次いで「2度」の割合が 23.7%、「3度」の割合が 16.9%となっています。



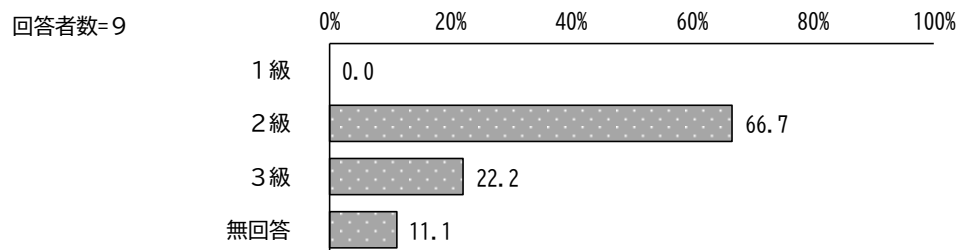
(3) 精神障害者保健福祉手帳（1つに○）

精神障害者保健福祉手帳については、「もっている」の割合が10.7%、「もっていない」の割合が82.1%となっています。



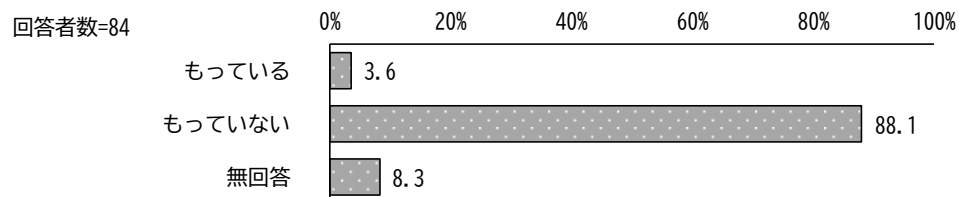
等級

精神障害者保健福祉手帳の等級については、「2級」の割合が66.7%と最も多く、次いで「3級」の割合が22.2%となっています。



(4) 難病及び人工透析にかかる医療券をお持ちですか。（1つに○）

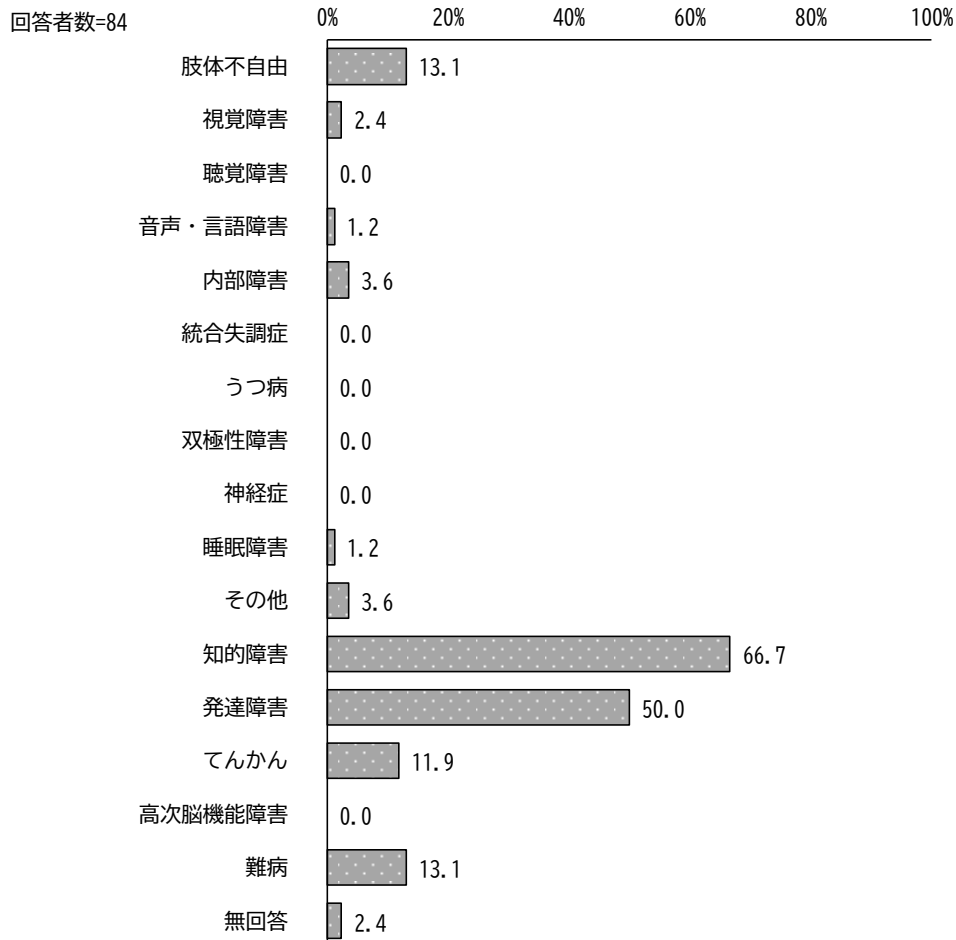
難病及び人工透析にかかる医療券については、「もっている」の割合が3.6%、「もっていない」の割合が88.1%となっています。



問5 お子さんの障害の種類又は病名についておたずねします。

(あてはまる番号すべてに○)

障害の種類又は病名については、「知的障害」の割合が66.7%と最も多く、次いで「発達障害」の割合が50.0%、「肢体不自由」、「難病」の割合がともに13.1%となっています。



【障害種別】

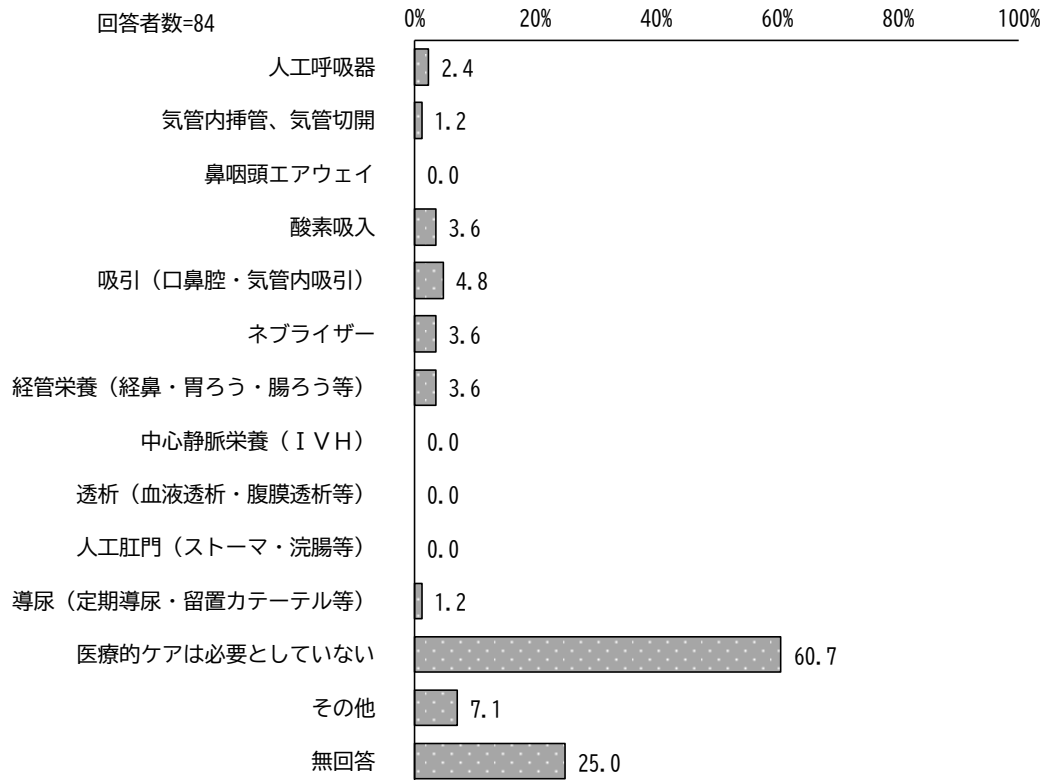
(単位：%)

区分	回答者数 (人)	肢体不自由	視覚障害	聴覚障害	音声・言語障害	内部障害	統合失調症	うつ病	双極性障害	神経症	睡眠障害	その他	知的障害	発達障害	てんかん	高次脳機能障害	難病	無回答
全体	84	13.1	2.4	-	1.2	3.6	-	-	-	-	1.2	3.6	66.7	50.0	11.9	-	13.1	2.4
身体障害者	15	73.3	13.3	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	60.0	-	20.0	-	26.7	6.7
知的障害者	59	8.5	1.7	-	1.7	1.7	-	-	-	-	1.7	5.1	81.4	57.6	11.9	-	3.4	1.7
精神障害者	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	55.6	77.8	11.1	-	-	-
難病患者	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3	-	66.7	-

問6 お子さんは、次のような医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまる番号すべてに○)

医療的ケアの必要性については、「医療的ケアは必要としていない」の割合が60.7%と最も多く、次いで「吸引(口鼻腔・気管内吸引)」の割合が4.8%、「酸素吸入」、「ネブライザー」、「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう等)」の割合が3.6%となっています。



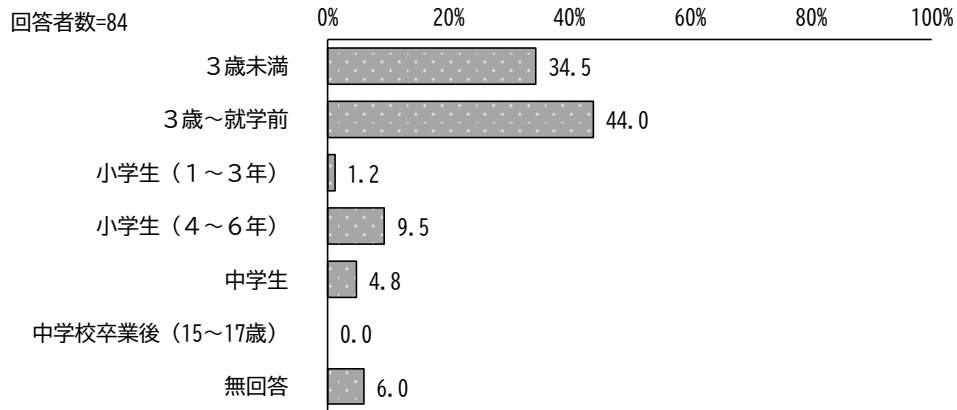
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	人工呼吸器	気管内挿管、気管切開	鼻咽頭エアウェイ	酸素吸入	吸引(口鼻腔・気管内吸引)	ネブライザー	経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう等)	中心静脈栄養(IVH)	透析(血液透析・腹膜透析等)	人工肛門(ストーマ・浣腸等)	導尿(定期導尿・留置カテーテル等)	医療的ケアは必要としていない	その他	無回答
全体	84	2.4	1.2	-	3.6	4.8	3.6	3.6	-	-	-	1.2	60.7	7.1	25.0
身体障害者	15	13.3	6.7	-	20.0	26.7	20.0	20.0	-	-	-	-	46.7	6.7	13.3
知的障害者	59	-	-	-	-	-	-	1.7	-	-	-	-	66.1	5.1	27.1
精神障害者	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	88.9	-	11.1
難病患者	3	33.3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3

問7 お子さんが、最初に診断を受けたのは何歳のころですか。(1つに○)

最初に診断を受けた年齢については、「3歳～就学前」の割合が44.0%と最も多く、次いで「3歳未満」の割合が34.5%、「小学生(4～6年)」の割合が9.5%となっています。



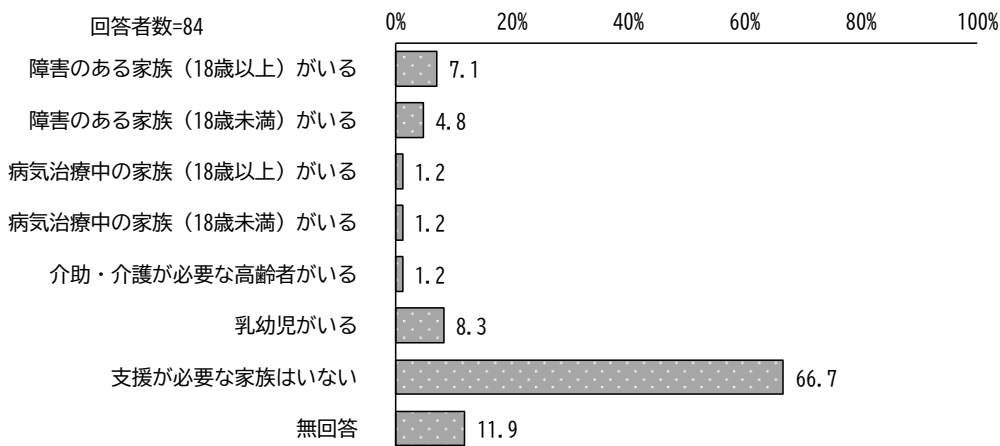
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	3歳未満	3歳～就学前	小学生(1～3年)	小学生(4～6年)	中学生	中学校卒業後(15～17歳)	無回答
全体	84	34.5	44.0	1.2	9.5	4.8	-	6.0
身体障害者	15	93.3	6.7	-	-	-	-	-
知的障害者	59	32.2	54.2	1.7	5.1	5.1	-	1.7
精神障害者	9	11.1	44.4	-	33.3	-	-	11.1
難病患者	3	66.7	-	-	33.3	-	-	-

問8 あなたと同居している家族の中に、お子さん以外に支援が必要な家族はいますか。
(あてはまる番号すべてに○)

同居している家族の中に、お子さん以外に支援が必要な家族はいるかどうかについては、「支援が必要な家族はいない」の割合が66.7%と最も多く、次いで「乳幼児がいる」の割合が8.3%、「障害のある家族(18歳以上)がいる」の割合が7.1%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、全ての障害で「支援が必要な家族はいない」が最も多くなっています。

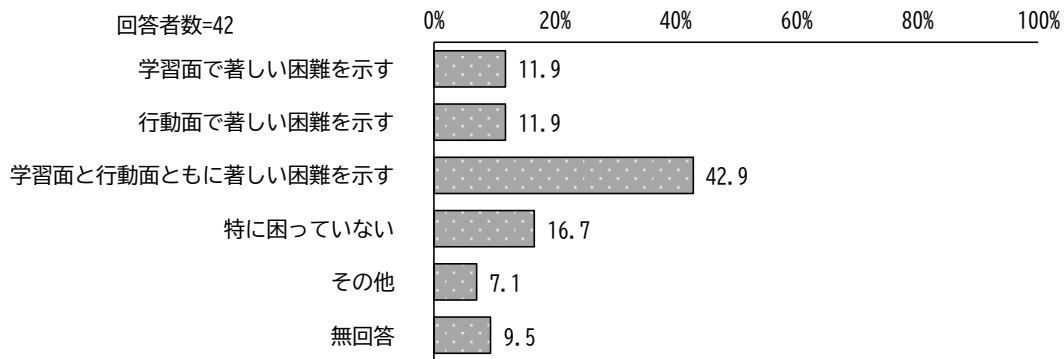
(単位：%)

区分	回答者数(人)	障害のある家族(18歳以上)がいる	障害のある家族(18歳未満)がいる	病気治療中の家族(18歳以上)がいる	病気治療中の家族(18歳未満)がいる	高介助者・介護が必要な高齢者がいる	乳幼児がいる	支援が必要な家族はいない	無回答
全体	84	7.1	4.8	1.2	1.2	1.2	8.3	66.7	11.9
身体障害者	15	-	6.7	6.7	-	-	20.0	53.3	13.3
知的障害者	59	8.5	6.8	-	1.7	1.7	6.8	74.6	3.4
精神障害者	9	11.1	-	-	-	-	-	55.6	33.3
難病患者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-

(3) 発達障害について

問9 お子さんが発達障害でお困りのことはありますか。(1つに○)

お子さんの発達障害に関する困りごとについては、「学習面と行動面ともに著しい困難を示す」の割合が42.9%と最も多く、次いで「特に困っていない」の割合が16.7%、「学習面で著しい困難を示す」、「行動面で著しい困難を示す」の割合がともに11.9%となっています。



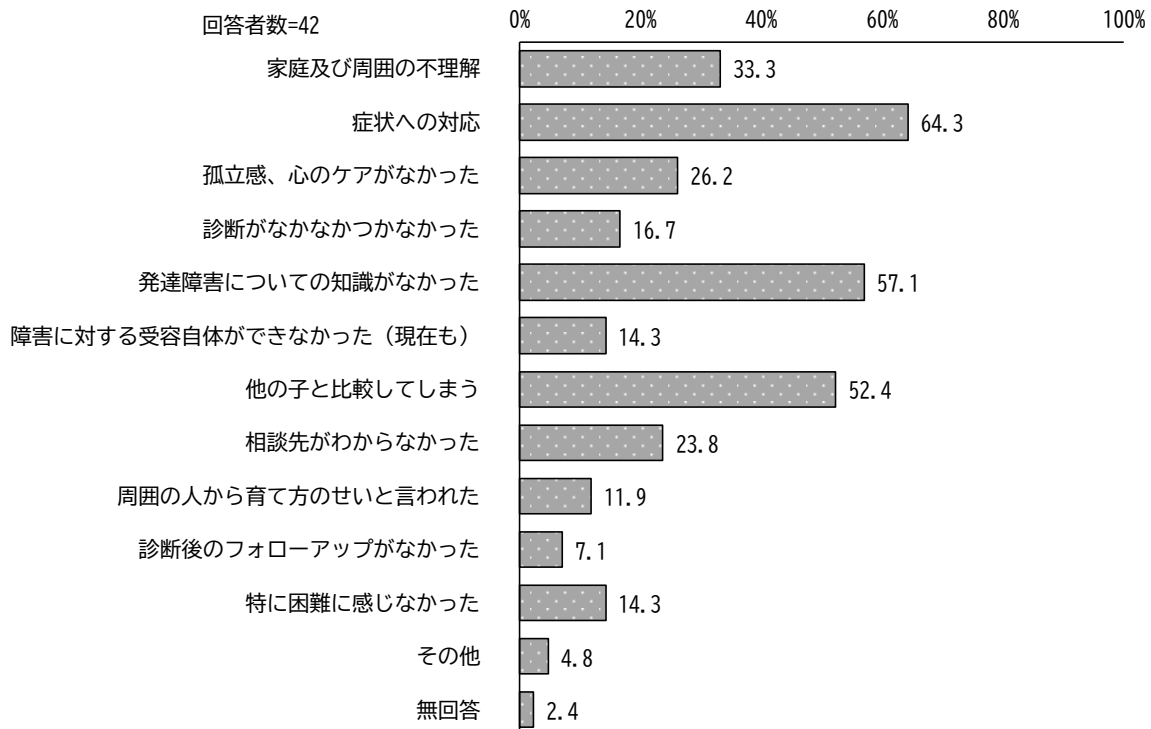
【年齢区分別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	学習面で著しい困難を示す	行動面で著しい困難を示す	学習面と行動面ともに著しい困難を示す	特に困っていない	その他	無回答
全体	42	11.9	11.9	42.9	16.7	7.1	9.5
3歳未満	-	-	-	-	-	-	-
3歳～就学前	5	-	-	60.0	20.0	-	20.0
小学生(1～3年)	8	-	12.5	87.5	-	-	-
小学生(4～6年)	7	14.3	57.1	-	14.3	14.3	-
中学生	9	22.2	-	33.3	11.1	11.1	22.2
中学校卒業後(15～17歳)	13	15.4	-	38.5	30.8	7.7	7.7

問10 子どもの障害に気づいてから診断を受けて、障害を受け入れる過程で、
 どのようなことが困難に感じましたか。(あてはまる番号すべてに○)

子どもの障害に気づいてから診断を受けて、どのようなことが困難に感じたかについて、「症状への対応」の割合が64.3%と最も多く、次いで「発達障害についての知識がなかった」の割合が57.1%、「他の子と比較してしまう」の割合が52.4%となっています。



【年齢区分別】

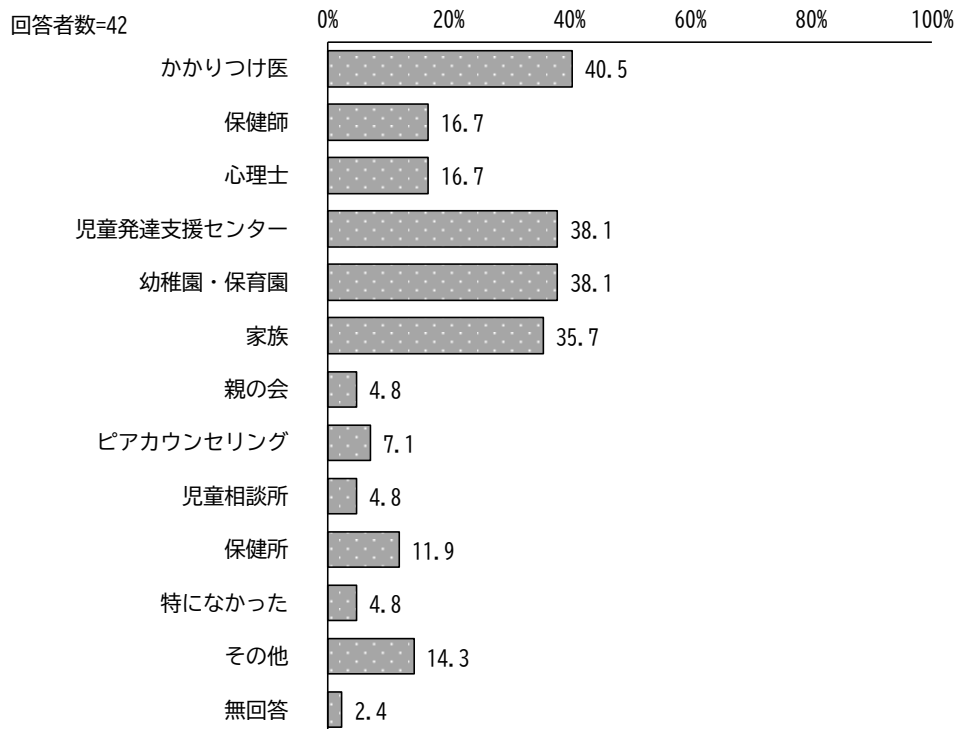
年齢区分別にみると、3歳～就学前、小学生(1～3年)、中学生は「症状への対応」(順に60.0%、75.0%、77.8%)、小学生(4～6年)は「症状への対応」、「他の子と比較してしまう」(共に71.4%)、中学生卒業後(15～17歳)は「発達障害についての知識がなかった」(61.5%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	家庭及び周囲の不理解	症状への対応	孤立感、心のケアがなかった	診断がなかなかつかなかつた	発達障害についての知識がなかった	障害に対する受容自体ができなかった(現在も)	他の子と比較してしまう	相談先がわからなかった	周囲の人から育て方のせいと言われた	診断後のフォローアップがなかった	特に困難に感じなかった	その他	無回答
全体	42	33.3	64.3	26.2	16.7	57.1	14.3	52.4	23.8	11.9	7.1	14.3	4.8	2.4
3歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3歳～就学前	5	-	60.0	40.0	-	40.0	-	20.0	40.0	-	20.0	20.0	-	20.0
小学生(1～3年)	8	37.5	75.0	12.5	25.0	62.5	12.5	50.0	12.5	-	-	-	12.5	-
小学生(4～6年)	7	28.6	71.4	-	14.3	42.9	14.3	71.4	14.3	-	-	14.3	-	-
中学生	9	55.6	77.8	44.4	22.2	66.7	22.2	66.7	33.3	33.3	-	11.1	-	-
中学校卒業後(15～17歳)	13	30.8	46.2	30.8	15.4	61.5	15.4	46.2	23.1	15.4	15.4	23.1	7.7	-

問 11 気づきから診断に至る過程で、どのような支援（者）が助けとなりましたか。
 （あてはまる番号すべてに○）

助けになった支援者については、「かかりつけ医」の割合が40.5%と最も多く、次いで「児童発達支援センター」、「幼稚園・保育園」の割合がともに38.1%、「家族」の割合が35.7%となっています。



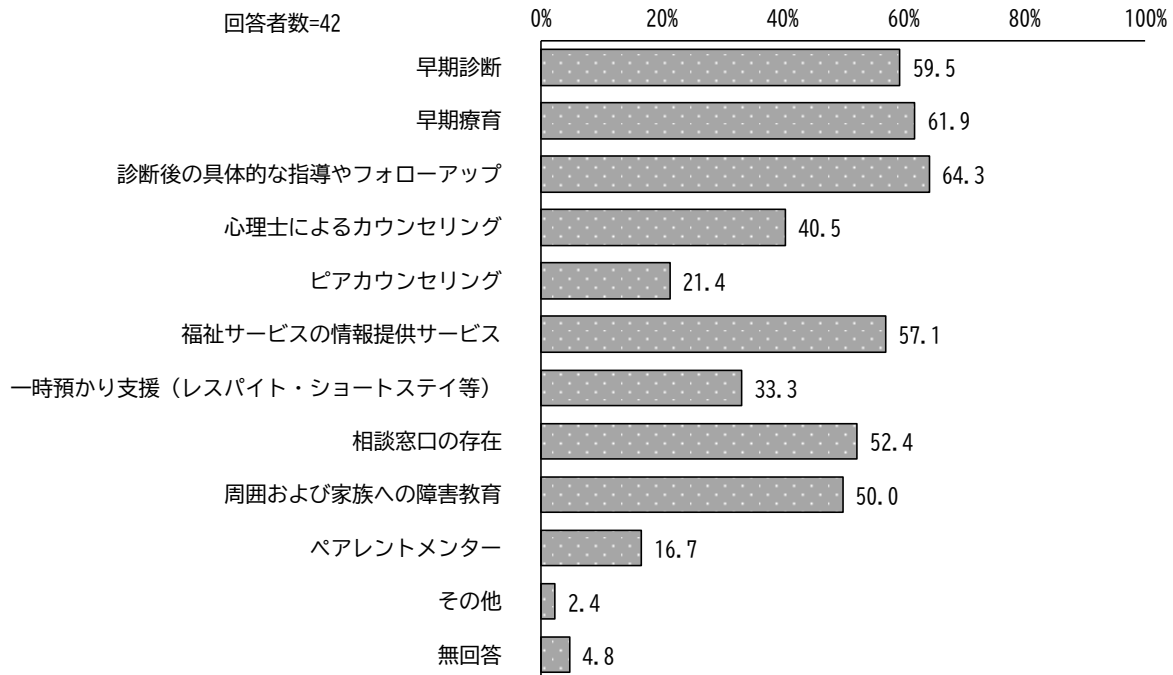
【年齢区分別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	かかりつけ医	保健師	心理士	児童発達支援センター	幼稚園・保育園	家族	親の会	ピアカウンセリング	児童相談所	保健所	特になかった	その他	無回答
全体	42	40.5	16.7	16.7	38.1	38.1	35.7	4.8	7.1	4.8	11.9	4.8	14.3	2.4
3歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3歳～就学前	5	60.0	20.0	-	60.0	60.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0
小学生（1～3年）	8	50.0	12.5	25.0	50.0	37.5	37.5	-	-	-	-	12.5	12.5	-
小学生（4～6年）	7	42.9	14.3	14.3	28.6	42.9	57.1	-	-	-	-	-	28.6	-
中学生	9	66.7	22.2	22.2	33.3	11.1	44.4	-	11.1	-	22.2	-	33.3	-
中学校卒業後（15～17歳）	13	7.7	15.4	15.4	30.8	46.2	23.1	7.7	15.4	15.4	15.4	7.7	-	-

問 12 お子さんの発達障害を受け入れるまでに、どのような支援が必要だと思いますか。
(あてはまる番号すべてに○)

発達障害を受け入れるまでに、必要だと思う支援については、「診断後の具体的な指導やフォローアップ」の割合が64.3%と最も多く、次いで「早期療育」の割合が61.9%、「早期診断」の割合が59.5%となっています。



【年齢区分別】

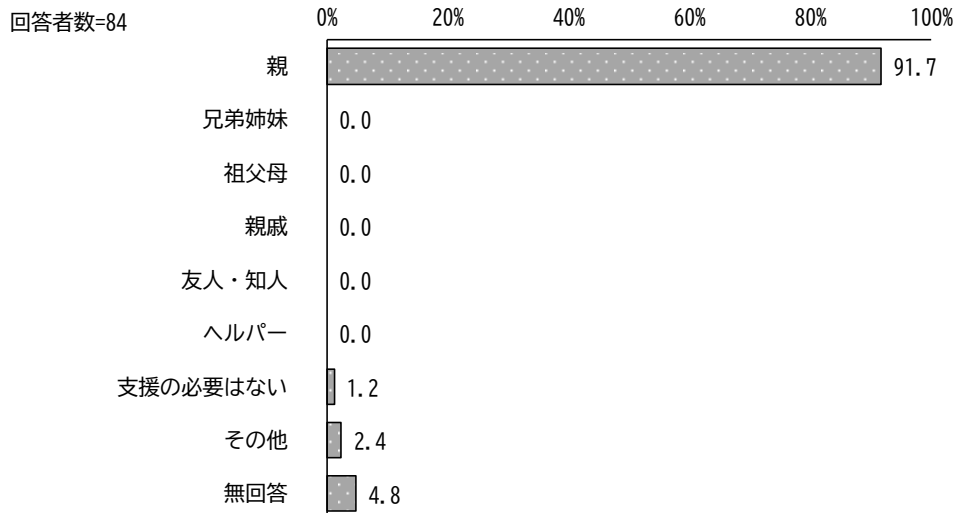
(単位：%)

区分	回答者数 (人)	早期診断	早期療育	診断後の具体的な指導やフォローアップ	心理士によるカウンセリング	ピアカウンセリング	福祉サービスの情報提供サービス	一時預かり支援 (レスパイト・ショートステイ等)	相談窓口の存在	周囲および家族への障害教育	パARENTメンター	その他	無回答
全体	42	59.5	61.9	64.3	40.5	21.4	57.1	33.3	52.4	50.0	16.7	2.4	4.8
3歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3歳～就学前	5	20.0	-	60.0	-	-	40.0	40.0	40.0	40.0	-	20.0	20.0
小学生 (1～3年)	8	62.5	75.0	87.5	50.0	25.0	62.5	37.5	62.5	37.5	25.0	-	-
小学生 (4～6年)	7	100.0	85.7	57.1	14.3	-	71.4	28.6	42.9	42.9	-	-	-
中学生	9	55.6	66.7	55.6	66.7	44.4	66.7	44.4	55.6	77.8	22.2	-	-
中学校卒業後 (15～17歳)	13	53.8	61.5	61.5	46.2	23.1	46.2	23.1	53.8	46.2	23.1	-	7.7

(4) 日常生活について

問13 お子さんの主な支援者は誰ですか。(1つに○)

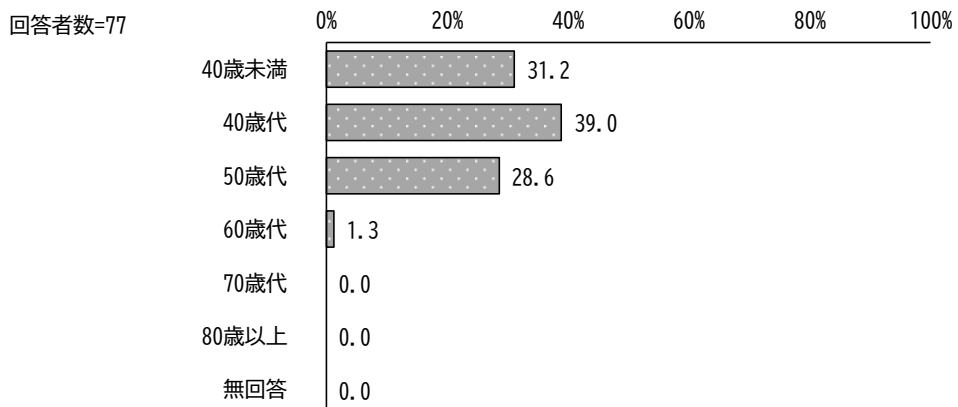
お子さんの主な支援者については、「親」の割合が91.7%と最も多くなっています。



【問13で「1.」～「5.」のいずれかを選択した方に伺います。】

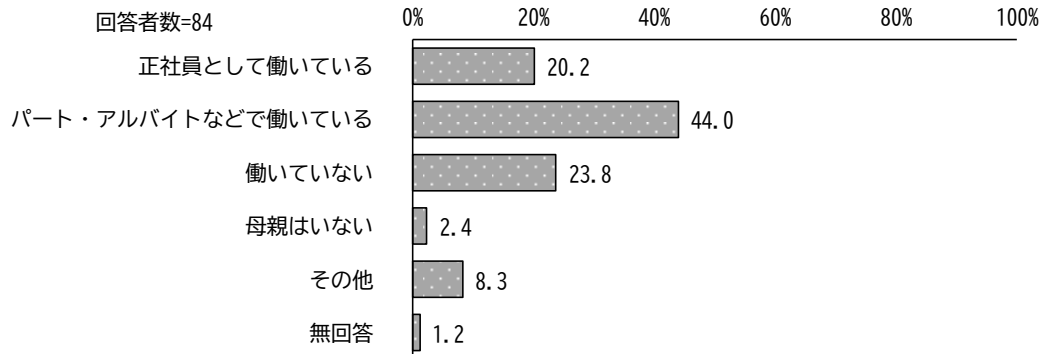
問14 お子さんの主な支援者の年齢はどれですか。(1つに○)

お子さんの主な支援者の年齢については、「40歳代」の割合が39.0%と最も多く、次いで「40歳未満」の割合が31.2%、「50歳代」の割合が28.6%となっています。



問 15 お子さんの母親の就労状況についてお答えください。(1つに○)

母親の就労状況については、「パート・アルバイトなどで働いている」の割合が44.0%と最も多く、次いで「働いていない」の割合が23.8%、「正社員として働いている」の割合が20.2%となっています。



【年齢区分別】

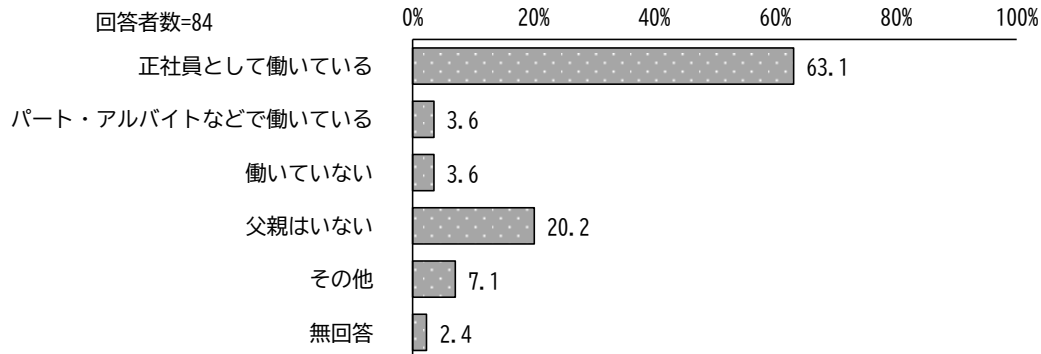
年齢区分別にみると、3歳未満、小学生(1～3年)は「働いていない」(順に50.0%、42.9%)、3歳～就学前は「正社員として働いている」と「パート・アルバイトなどで働いている」(42.9%)、小学生(4～6年)、中学生、中学生卒業後(15～17歳)は「パート・アルバイトなどで働いている」(順に55.6%、47.1%、47.8%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	正社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	働いていない	母親はいない	その他	無回答
全体	84	20.2	44.0	23.8	2.4	8.3	1.2
3歳未満	4	-	25.0	50.0	-	25.0	-
3歳～就学前	7	42.9	42.9	-	-	14.3	-
小学生(1～3年)	14	14.3	28.6	42.9	-	14.3	-
小学生(4～6年)	18	11.1	55.6	27.8	-	5.6	-
中学生	17	29.4	47.1	17.6	-	5.9	-
中学校卒業後(15～17歳)	23	21.7	47.8	17.4	8.7	4.3	-

問 16 お子さんの父親の就労状況についてお答えください。(1つに○)

父親の就労状況については、「正社員として働いている」の割合が63.1%と最も多く、次いで「父親はいない」の割合が20.2%、「パート・アルバイトなどで働いている」、「働いていない」の割合がともに3.6%となっています。



【年齢区分別】

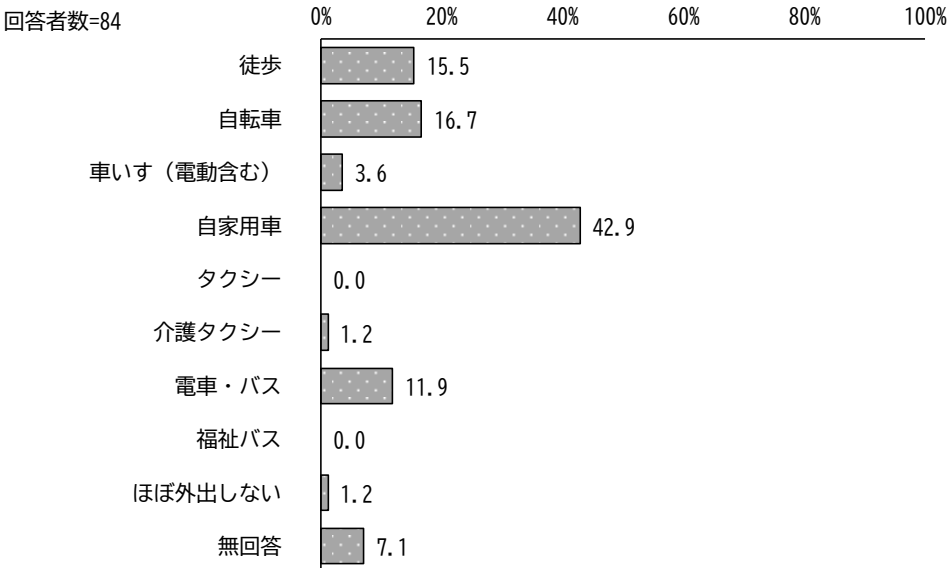
年齢区分別にみると、3歳未満、小学生(1～3年)、小学生(4～6年)、中学生、中学生卒業後(15～17歳)は「正社員として働いている」(順に75.0%、64.3%、72.2%、64.7%、60.9%)、3歳～就学前は「父親はいない」(57.1%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	正社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	働いていない	父親はいない	その他	無回答
全体	84	63.1	3.6	3.6	20.2	7.1	2.4
3歳未満	4	75.0	-	-	25.0	-	-
3歳～就学前	7	42.9	-	-	57.1	-	-
小学生(1～3年)	14	64.3	-	-	28.6	7.1	-
小学生(4～6年)	18	72.2	5.6	5.6	11.1	5.6	-
中学生	17	64.7	5.9	-	11.8	11.8	5.9
中学校卒業後(15～17歳)	23	60.9	4.3	8.7	17.4	8.7	-

問 17 お子さんが外出する際の最も多い手段は何ですか。(1つに○)

外出する際の最も多い手段については、「自家用車」の割合が42.9%と最も多く、次いで「自転車」の割合が16.7%、「徒歩」の割合が15.5%となっています。



【年齢区分別】

年齢区分別にみると、3歳未満、小学生(1～3年)、小学生(4～6年)は「自家用車」(順に75.0%、57.1%、55.6%)、3歳～就学前は「自転車」と「自家用車」(ともに42.9%)、中学生は「自転車」(41.2%)、中学生卒業後(15～17歳)は「電車・バス」(39.1%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	徒歩	自転車	車いす(電動含む)	自家用車	タクシー	介護タクシー	電車・バス	福祉バス	ほぼ外出しない	無回答
全体	84	15.5	16.7	3.6	42.9	-	1.2	11.9	-	1.2	7.1
3歳未満	4	25.0	-	-	75.0	-	-	-	-	-	-
3歳～就学前	7	-	42.9	14.3	42.9	-	-	-	-	-	-
小学生(1～3年)	14	21.4	7.1	-	57.1	-	7.1	-	-	7.1	-
小学生(4～6年)	18	22.2	11.1	5.6	55.6	-	-	-	-	-	5.6
中学生	17	-	41.2	5.9	35.3	-	-	5.9	-	-	11.8
中学校卒業後(15～17歳)	23	21.7	4.3	-	26.1	-	-	39.1	-	-	8.7

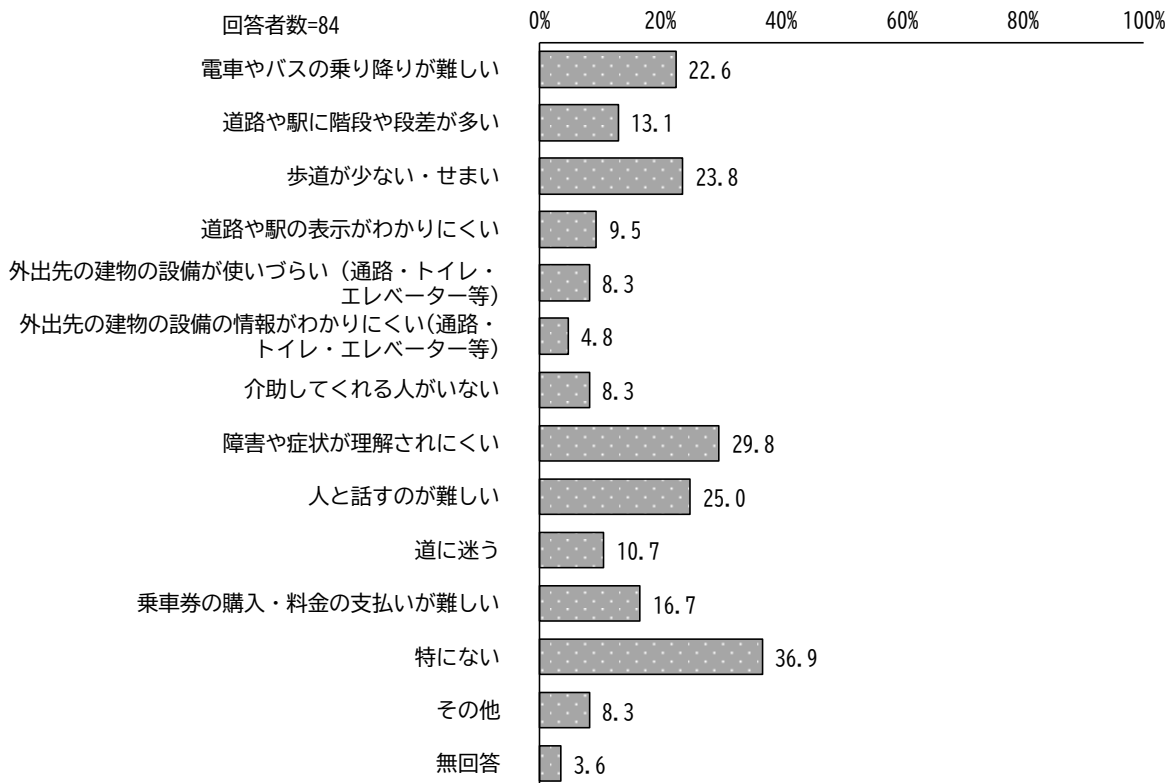
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	徒歩	自転車	車いす(電動含む)	自家用車	タクシー	介護タクシー	電車・バス	福祉バス	ほぼ外出しない	無回答
全体	84	15.5	16.7	3.6	42.9	-	1.2	11.9	-	1.2	7.1
身体障害者	15	6.7	-	20.0	53.3	-	6.7	6.7	-	-	6.7
知的障害者	59	13.6	18.6	1.7	45.8	-	-	15.3	-	1.7	3.4
精神障害者	9	-	22.2	-	55.6	-	-	11.1	-	-	11.1
難病患者	3	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-

問 18 お子さんが外出のときに、お子さんが（あなたが）困ることはありますか。
 （特に市内で）（あてはまる番号すべてに○）

お子さんが外出のときに、お子さんが（あなたが）困ることについては、「特にない」の割合が36.9%と最も多く、次いで「障害や症状が理解されにくい」の割合が29.8%、「人と話すのが難しい」の割合が25.0%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「歩道が少ない・せまい」(53.3%)、知的障害者、精神障害者は「特にない」(順に35.6%、44.4%)、難病患者は「歩道が少ない・せまい」、「外出先の建物の設備が使いづらい(通路・トイレ・エレベーター等)」、「障害や症状が理解されにくい」、「特にない」、「その他」(ともに33.3%)が最も多くなっています。

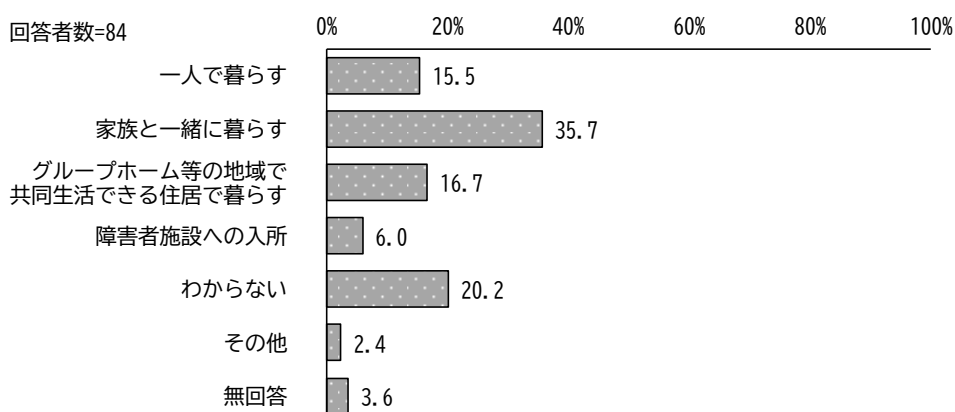
(単位：%)

区分	回答者数(人)	電車やバスの乗り降りが難しい	道路や駅に階段や段差が多い	歩道が少ない・せまい	道路や駅の表示がわかりにくい	外出先の建物の設備が使いづらい(通路・トイレ・エレベーター等)	外出先の建物の設備の情報(通路・トイレ・エレベーター等)がわかりにくい	介助してくれる人がいない
全体	84	22.6	13.1	23.8	9.5	8.3	4.8	8.3
身体障害者	15	40.0	46.7	53.3	20.0	40.0	26.7	13.3
知的障害者	59	22.0	10.2	25.4	8.5	6.8	3.4	11.9
精神障害者	9	11.1	-	-	11.1	-	-	-
難病患者	3	-	-	33.3	-	33.3	-	-

区分	障害や症状が理解されにくい	人と話すのが難しい	道に迷う	乗車券の購入・料金の支払いが難しい	特にない	その他	無回答
全体	29.8	25.0	10.7	16.7	36.9	8.3	3.6
身体障害者	13.3	13.3	13.3	13.3	33.3	13.3	6.7
知的障害者	33.9	30.5	13.6	20.3	35.6	5.1	1.7
精神障害者	33.3	33.3	-	22.2	44.4	11.1	11.1
難病患者	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-

問 19 お子さんは今後（成人後）、どのように暮らしてほしいと思いますか。（1つに○）

お子さんの今後（成人後）の暮らし方については、「家族と一緒に暮らす」の割合が35.7%と最も多く、次いで「わからない」の割合が20.2%、「グループホーム等の地域で共同生活できる住居で暮らす」の割合が16.7%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「家族と一緒に暮らす」(順に40.0%、30.5%、44.4%)、難病患者は「一人で暮らす」、「家族と一緒に暮らす」、「障害者施設への入所」(ともに33.3%)が最も多くなっています。

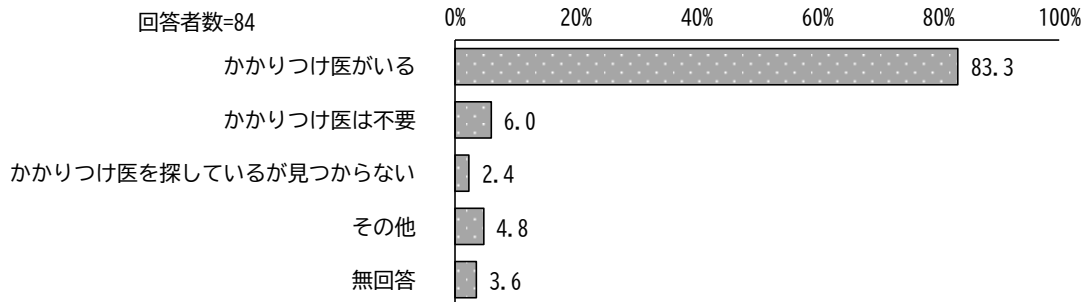
(単位：%)

区分	回答者数(人)	一人で暮らす	家族と一緒に暮らす	グループホーム等の地域で共同生活できる住居で暮らす	障害者施設への入所	わからない	その他	無回答
全体	84	15.5	35.7	16.7	6.0	20.2	2.4	3.6
身体障害者	15	20.0	40.0	13.3	13.3	6.7	-	6.7
知的障害者	59	13.6	30.5	22.0	6.8	22.0	3.4	1.7
精神障害者	9	22.2	44.4	-	11.1	11.1	-	11.1
難病患者	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-

(5) 健康・医療について

問 20 お子さんに、かかりつけ医はいますか。(1つに○)

かかりつけ医の有無については、「かかりつけ医がいる」の割合が83.3%と最も多く、「かかりつけ医は不要」の割合が6.0%、となっています。



【障害種別】

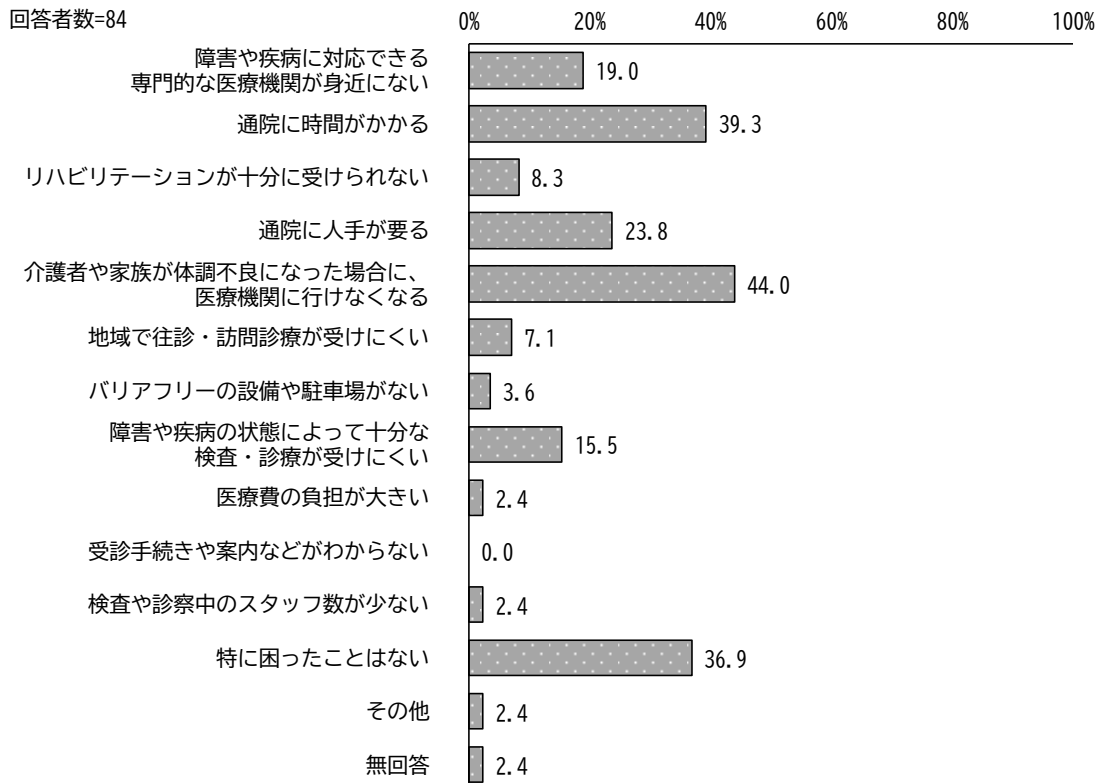
障害種別にみると、すべての障害で「かかりつけ医がいる」の割合が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	かかりつけ医がいる	かかりつけ医は不要	見探か つし かて ら い つ な ら な い が 医 を	その他	無回答
全体	84	83.3	6.0	2.4	4.8	3.6
身体障害者	15	93.3	-	-	6.7	-
知的障害者	59	84.7	5.1	3.4	5.1	1.7
精神障害者	9	88.9	-	-	11.1	-
難病患者	3	100.0	-	-	-	-

問 21 お子さんの健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

お子さんの健康管理や医療について、困ったり不便に思うことについては、「介護者や家族が体調不良になった場合に、医療機関に行けなくなる」の割合が44.0%と最も多く、次いで「通院に時間がかかる」の割合が39.3%、「特に困ったことはない」の割合が36.9%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、困ったり不便に思うことについては、身体障害者は「介護者や家族が体調不良になった場合に、医療機関に行けなくなる」(73.3%)、知的障害者は「特に困ったことはない」(45.8%)、精神障害者は「通院に時間がかかる」(55.6%)、難病患者は「障害や疾病に対応できる専門的な医療機関が身近にない」、「通院に時間がかかる」、「通院に人手が要る」、「介護者や家族が体調不良になった場合に、医療機関に行けなくなる」(共に66.7%)が最も多くなっています。

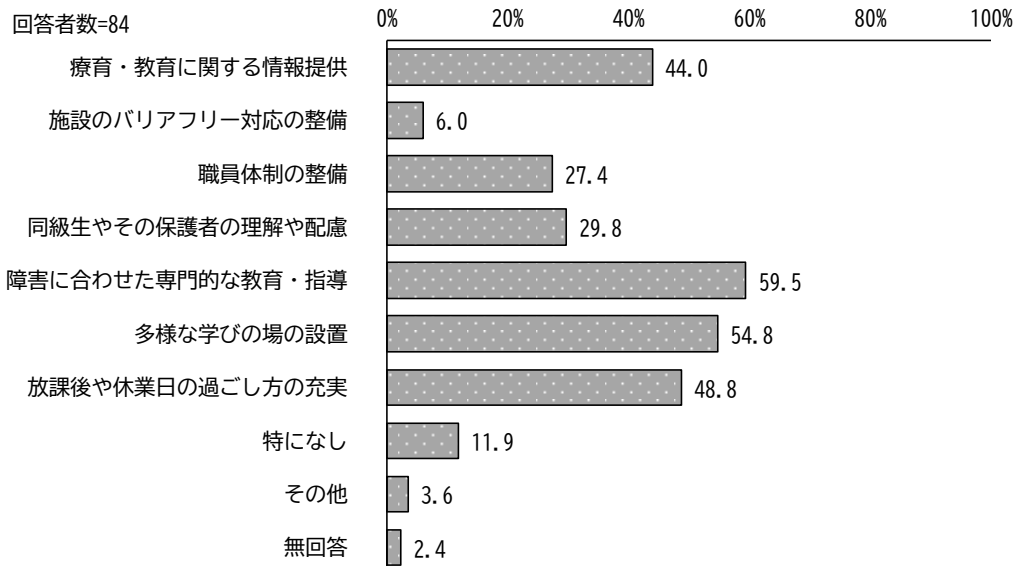
(単位：%)

区分	回答者数(人)	に専門的な医療機関が身近	通院に時間がかかる	十分に受けられない	通院に人手が要る	介護者や家族が体調不良になった場合に、医療機関に行けなくなる	地域で往診・訪問診療が受けにくい	バリアフリーの設備や駐車場がない
全体	84	19.0	39.3	8.3	23.8	44.0	7.1	3.6
身体障害者	15	40.0	60.0	6.7	33.3	73.3	13.3	13.3
知的障害者	59	15.3	28.8	10.2	23.7	40.7	8.5	1.7
精神障害者	9	22.2	55.6	11.1	33.3	33.3	-	-
難病患者	3	66.7	66.7	-	66.7	66.7	33.3	-

区分	障害や疾病の状態によって十分な検査・診療が受けにくい	医療費の負担が大きい	受診手続きや案内などがわからない	検査や診察中のスタッフ数が少ない	特に困ったことはない	その他	無回答
全体	15.5	2.4	-	2.4	36.9	2.4	2.4
身体障害者	20.0	6.7	-	13.3	13.3	6.7	6.7
知的障害者	20.3	1.7	-	3.4	45.8	1.7	1.7
精神障害者	11.1	-	-	-	22.2	11.1	-
難病患者	33.3	-	-	-	-	33.3	-

問 22 お子さんの療育・教育について、今後どのようなことを充実して欲しいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

療育・教育について、今後どのようなことを充実して欲しいかについては、「障害に合わせた専門的な教育・指導」の割合が59.5%と最も多く、次いで「多様な学びの場の設置」の割合が54.8%、「放課後や休業日の過ごし方の充実」の割合が48.8%となっています。



【障害種別】

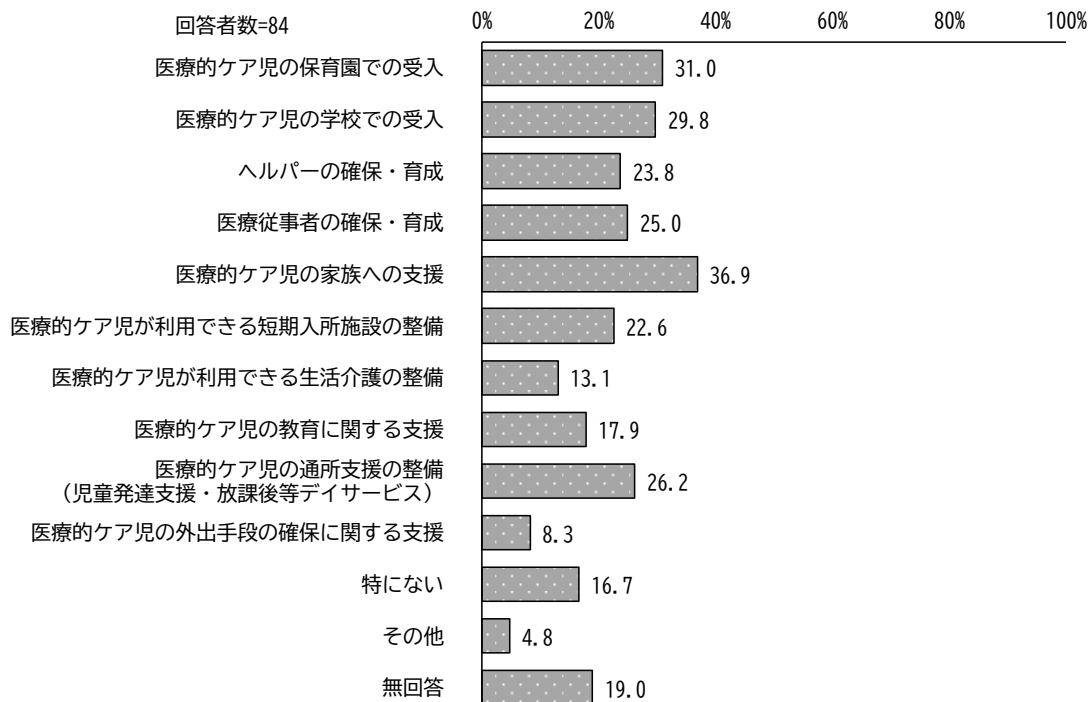
障害種別にみると、身体障害者、精神障害者、難病患者は「障害に合わせた専門的な教育・指導」(順に66.7%、66.7%、100.0%)、知的障害者は「多様な学びの場の設置」(64.4%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	療育・教育に関する情報提供	施設のバリアフリー対応の整備	職員体制の整備	同級生やその保護者の理解や配慮	障害に合わせた専門的な教育・指導	多様な学びの場の設置	放課後や休業日の過ごし方の充実	特になし	その他	無回答
全体	84	44.0	6.0	27.4	29.8	59.5	54.8	48.8	11.9	3.6	2.4
身体障害者	15	53.3	20.0	40.0	33.3	66.7	40.0	40.0	13.3	6.7	6.7
知的障害者	59	45.8	1.7	33.9	25.4	61.0	64.4	55.9	8.5	1.7	1.7
精神障害者	9	55.6	11.1	33.3	55.6	66.7	55.6	55.6	22.2	11.1	-
難病患者	3	66.7	-	33.3	66.7	100.0	66.7	33.3	-	-	-

問 23 医療的ケアが必要な児童に関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。
(あてはまる番号5つまでに○)

医療的ケアが必要な児童に関して、どのような支援の充実が必要かについては、「医療的ケア児の家族への支援」の割合が36.9%と最も多く、次いで「医療的ケア児の保育園での受入」の割合が31.0%、「医療的ケア児の学校での受入」の割合が29.8%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「医療的ケア児が利用できる短期入所施設の整備」(46.7%)、知的障害者は「医療的ケア児の家族への支援」(順に32.2%、55.6%)、難病患者は「医療的ケア児の保育園での受入」と「医療的ケア児が利用できる短期入所施設の整備」(66.7%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	医療的ケア児の保育園での受入	医療的ケア児の学校での受入	ヘルパーの確保・育成	医療従事者の確保・育成	医療的ケア児の家族への支援	短期入所施設が利用できる	生活介護の整備	医療的ケア児が利用できる	教育に関する支援	放課後等デイサービス・児童発達支援の整備	医療的ケア児の通所支援の整備	医療的ケア児の外出手段の確保に関する支援	特にない	その他	無回答
全体	84	31.0	29.8	23.8	25.0	36.9	22.6	13.1	17.9	26.2	8.3	16.7	4.8	19.0		
身体障害者	15	33.3	33.3	26.7	20.0	40.0	46.7	26.7	26.7	40.0	20.0	26.7	13.3	6.7		
知的障害者	59	22.0	23.7	22.0	27.1	32.2	16.9	11.9	18.6	27.1	8.5	20.3	3.4	18.6		
精神障害者	9	44.4	44.4	11.1	33.3	55.6	22.2	11.1	11.1	22.2	-	-	-	33.3		
難病患者	3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-		

【障害の種類又は病名別】

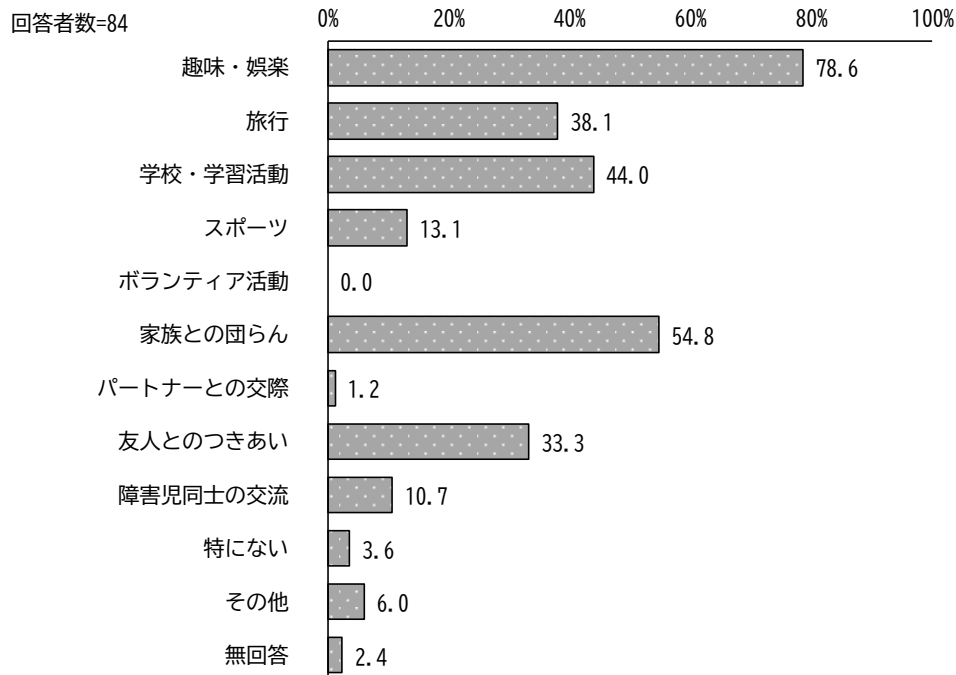
(単位：%)

区分	回答者数(人)	医療的ケア児の保育園での受入	医療的ケア児の学校での受入	ヘルパーの確保・育成	医療従事者の確保・育成	医療的ケア児の家族への支援	医療的ケア児が利用できる短期入所施設の整備	医療的ケア児が利用できる生活介護の整備	医療的ケア児の教育に関する支援	医療的ケア児の通所支援の整備(児童発達支援・放課後等デイサービス)	医療的ケア児の外出手段の確保に関する支援	特になし	その他	無回答
全体	84	31.0	29.8	23.8	25.0	36.9	22.6	13.1	17.9	26.2	8.3	16.7	4.8	19.0
肢体不自由	11	27.3	27.3	36.4	27.3	45.5	54.5	36.4	27.3	45.5	18.2	27.3	18.2	-
視覚障害	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
聴覚障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
音声・言語障害	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
内部障害	3	66.7	33.3	33.3	66.7	100.0	66.7	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
統合失調症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うつ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
双極性障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神経症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
睡眠障害	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
その他	3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	66.7	-	-
知的障害	56	28.6	28.6	23.2	28.6	41.1	21.4	12.5	23.2	30.4	8.9	16.1	5.4	16.1
発達障害	42	26.2	21.4	14.3	26.2	35.7	23.8	9.5	14.3	26.2	9.5	14.3	4.8	21.4
てんかん	10	40.0	20.0	20.0	50.0	40.0	30.0	30.0	20.0	60.0	10.0	10.0	10.0	-
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病	11	36.4	36.4	36.4	18.2	27.3	36.4	18.2	18.2	27.3	9.1	18.2	9.1	27.3

(6) 日頃の活動について

問 24 お子さんの楽しみや生きがいは何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんの楽しみや生きがいについては、「趣味・娯楽」の割合が78.6%と最も多く、次いで「家族との団らん」の割合が54.8%、「学校・学習活動」の割合が44.0%となっています。



【障害種別】

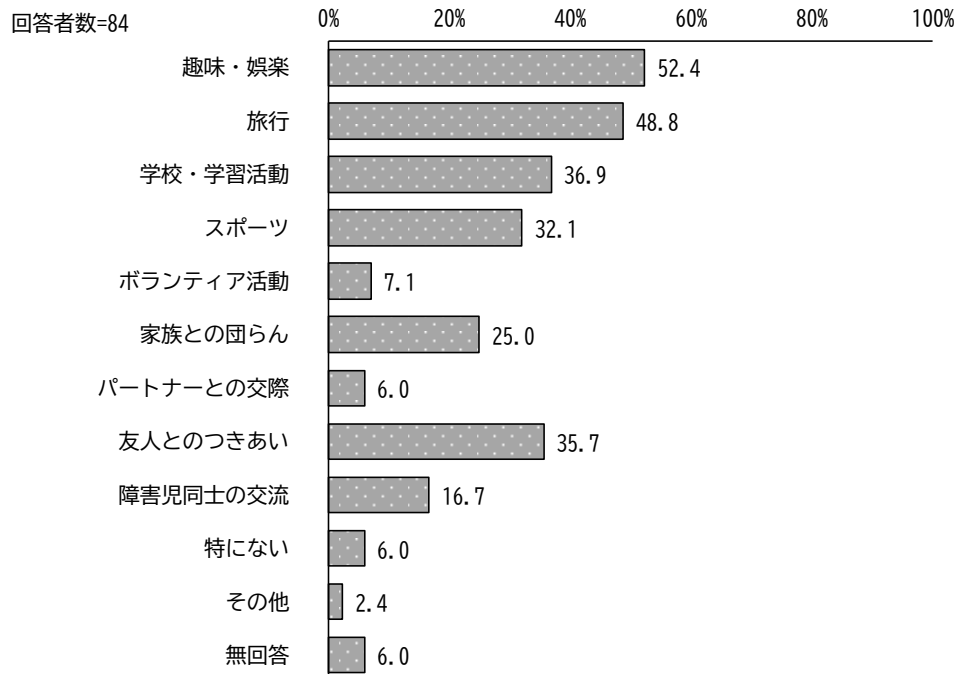
障害種別にみると、身体障害者は「趣味・娯楽」(順に60.0%、79.7%)、精神障害者は「趣味・娯楽」、「友人とのつきあい」(共に77.8%)、難病患者は「趣味・娯楽」、「家族との団らん」(ともに100.0%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	趣味・娯楽	旅行	学校・学習活動	スポーツ	ボランティア活動	家族との団らん	パートナーとの交際	友人とのつきあい	障害児同士の交流	特にない	その他	無回答
全体	84	78.6	38.1	44.0	13.1	-	54.8	1.2	33.3	10.7	3.6	6.0	2.4
身体障害者	15	60.0	26.7	46.7	13.3	-	53.3	-	26.7	20.0	-	6.7	6.7
知的障害者	59	79.7	35.6	47.5	8.5	-	52.5	1.7	23.7	11.9	5.1	5.1	1.7
精神障害者	9	77.8	33.3	33.3	11.1	-	55.6	-	77.8	11.1	-	11.1	-
難病患者	3	100.0	66.7	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

問 25 お子さんが今後やってみたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんが今後やってみたいことについては、「趣味・娯楽」の割合が52.4%と最も多く、次いで「旅行」の割合が48.8%、「学校・学習活動」の割合が36.9%となっています。



【障害種別】

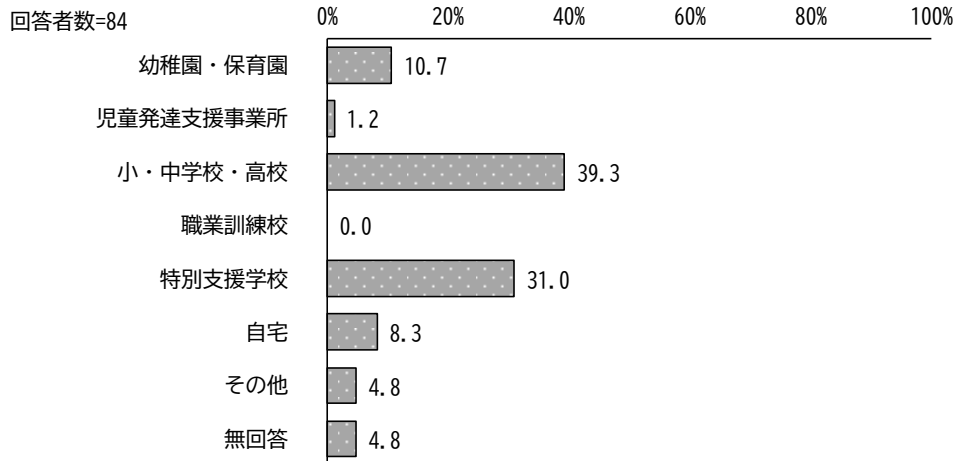
障害種別にみると、身体障害者は「旅行」(60.0%)、知的障害者、精神障害者は「趣味・娯楽」(順に50.8%、88.9%)、難病患者は「趣味・娯楽」、「旅行」(ともに100.0%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	趣味・娯楽	旅行	学校・学習活動	スポーツ	ボランティア活動	家族との団らん	パートナーとの交際	友人とのつきあい	障害児同士の交流	特にない	その他	無回答
全体	84	52.4	48.8	36.9	32.1	7.1	25.0	6.0	35.7	16.7	6.0	2.4	6.0
身体障害者	15	53.3	60.0	40.0	20.0	6.7	26.7	-	40.0	33.3	6.7	-	13.3
知的障害者	59	50.8	44.1	39.0	32.2	3.4	18.6	5.1	30.5	16.9	6.8	1.7	3.4
精神障害者	9	88.9	55.6	22.2	22.2	22.2	44.4	-	55.6	11.1	11.1	11.1	-
難病患者	3	100.0	100.0	33.3	-	-	66.7	-	33.3	33.3	-	-	-

問 26 お子さんは日中は主にどこで過ごしていますか。(1つに○)

お子さんが日中に過ごす場所については、「小・中学校・高校」の割合が39.3%と最も多く、次いで「特別支援学校」の割合が31.0%、「幼稚園・保育園」の割合が10.7%となっています。



【障害種別】

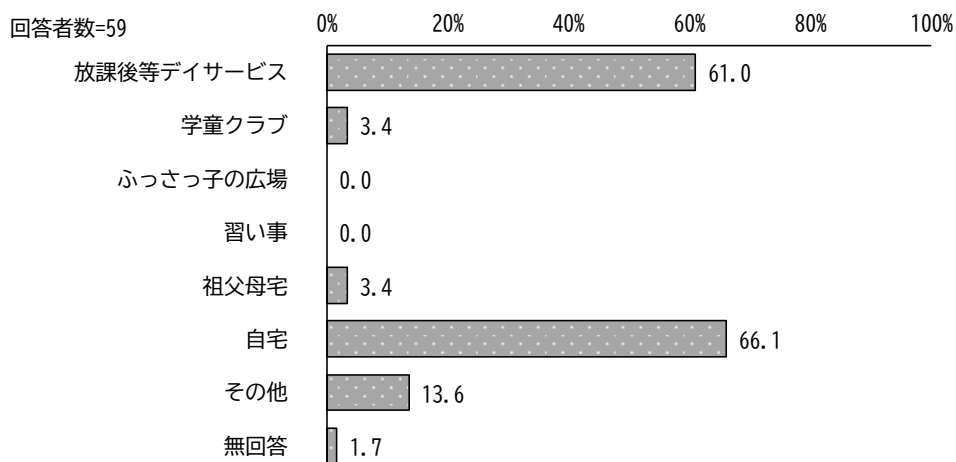
(単位：%)

区分	回答者数(人)	幼稚園・保育園	児童発達支援事業所	小・中学校・高校	職業訓練校	特別支援学校	自宅	その他	無回答
全体	84	10.7	1.2	39.3	-	31.0	8.3	4.8	4.8
身体障害者	15	20.0	-	26.7	-	33.3	13.3	-	6.7
知的障害者	59	6.8	1.7	40.7	-	40.7	5.1	1.7	3.4
精神障害者	9	11.1	-	44.4	-	11.1	11.1	11.1	11.1
難病患者	3	33.3	-	-	-	-	66.7	-	-

【問26で「3.」～「5.」のいずれかを選択した方に伺います。】

問27 お子さんは放課後や休日をどこで過ごしますか。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんが放課後や休日に過ごす場所については、「自宅」の割合が66.1%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」の割合が61.0%、「その他」の割合が13.6%となっています。



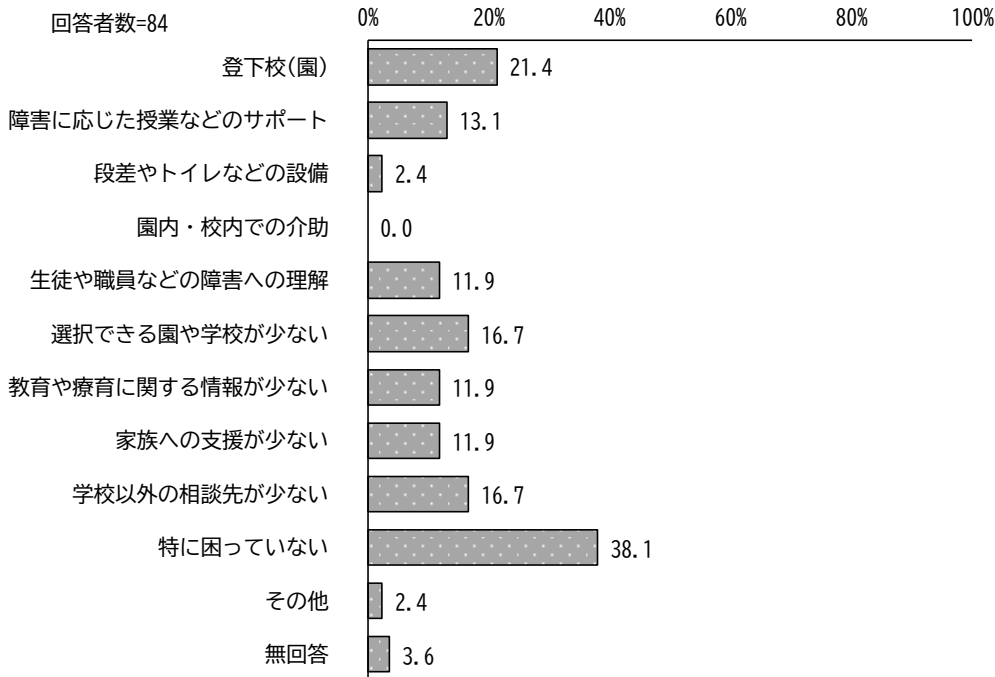
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	放課後等デイサービス	学童クラブ	ふっさっ子の広場	習い事	祖父母宅	自宅	その他	無回答
全体	59	61.0	3.4	-	-	3.4	66.1	13.6	1.7
身体障害者	9	88.9	11.1	-	-	-	55.6	11.1	-
知的障害者	48	66.7	2.1	-	-	2.1	68.8	10.4	2.1
精神障害者	5	40.0	-	-	-	20.0	60.0	20.0	-
難病患者	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問 28 通園・通学する上で困っていることは、ありますか。(あてはまる番号すべてに○)

通園・通学する上で困っていることについては、「特に困っていない」の割合が38.1%と最も多く、次いで「登下校(園)」の割合が21.4%、「選択できる園や学校が少ない」、「学校以外の相談先が少ない」の割合が16.7%となっています。



【障害種別】

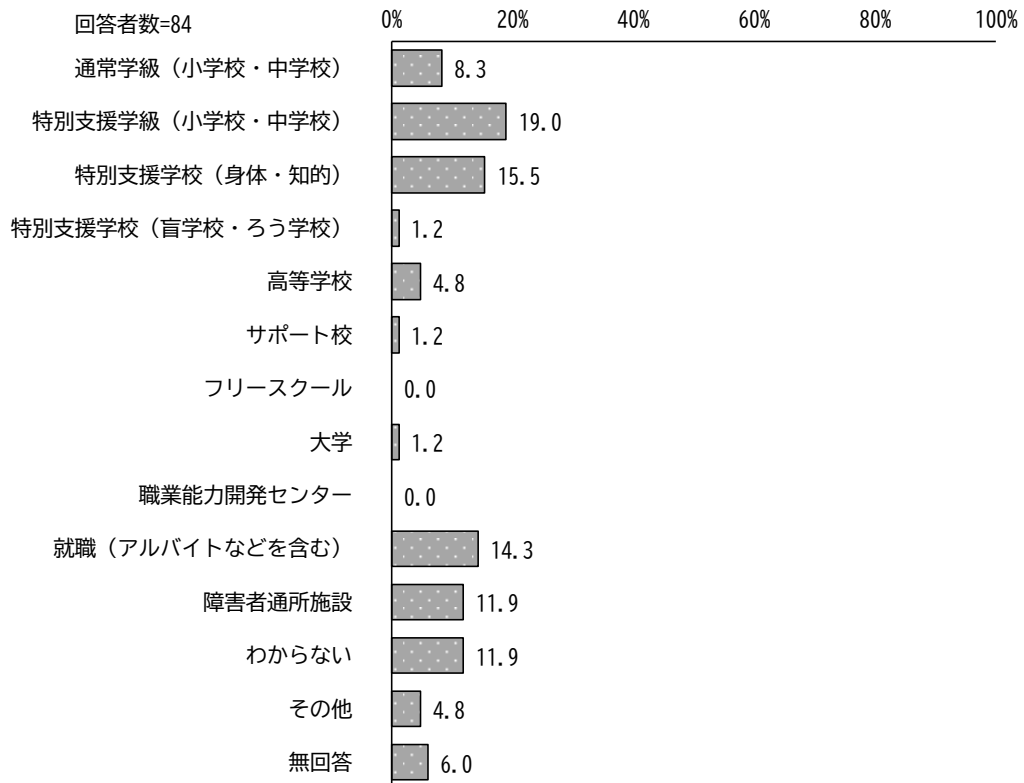
障害種別にみると、身体障害者は「選択できる園や学校が少ない」、「特に困っていない」(ともに33.3%)、知的障害者、精神障害者は「特に困っていない」(順に37.3%、33.3%)、難病患者は「障害に応じた授業などのサポート」(66.7%)が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	登下校(園)	障害に応じた授業などのサポート	段差やトイレなどの設備	園内・校内での介助	生徒や職員などの障害への理解	選択できる園や学校が少ない	教育や療育に関する情報が少ない	家族への支援が少ない	学校以外の相談先が少ない	特に困っていない	その他	無回答
全体	84	21.4	13.1	2.4	-	11.9	16.7	11.9	11.9	16.7	38.1	2.4	3.6
身体障害者	15	13.3	20.0	6.7	-	13.3	33.3	20.0	20.0	13.3	33.3	-	6.7
知的障害者	59	25.4	8.5	1.7	-	8.5	13.6	11.9	13.6	16.9	37.3	1.7	3.4
精神障害者	9	22.2	22.2	-	-	11.1	22.2	11.1	11.1	-	33.3	-	11.1
難病患者	3	33.3	66.7	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-

問 29 現在の通園・通学先を卒業した後、どのような進路を希望しますか。(1つに○)

通園・通学先を卒業した後の進路については、「特別支援学級(小学校・中学校)」の割合が19.0%と最も多く、次いで「特別支援学校(身体・知的)」の割合が15.5%、「就職(アルバイトなどを含む)」の割合が14.3%となっています。



【障害種別】

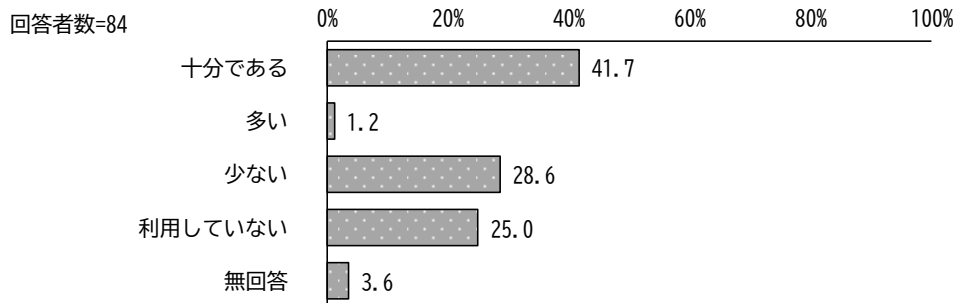
(単位：%)

区分	回答者数 (人)	通常学級 (小学校・中学校)	特別支援学級 (小学校・中学校)	特別支援学校 (身体・知的)	特別支援学校 (盲学校・ろう学校)	高等学校	サポート校	フリースクール	大学	職業能力開発センター	就職 (アルバイトなどを含む)	障害者通所施設	わからない	その他	無回答
全体	84	8.3	19.0	15.5	1.2	4.8	1.2	-	1.2	-	14.3	11.9	11.9	4.8	6.0
身体障害者	15	13.3	13.3	26.7	-	-	-	-	-	-	6.7	13.3	20.0	-	6.7
知的障害者	59	1.7	22.0	18.6	1.7	3.4	-	-	-	-	16.9	13.6	11.9	6.8	3.4
精神障害者	9	11.1	22.2	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	11.1	-	22.2
難病患者	3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-

(7) 福祉サービスについて

問 30 現在、利用しているサービス量は十分だと思いますか。(1つに○)

現在、利用しているサービス量については、「十分である」の割合が41.7%と最も多く、次いで「少ない」の割合が28.6%、「利用していない」の割合が25.0%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「少ない」(46.7%)、知的障害者、精神障害者は「十分である」(順に49.2%、44.4%)、難病患者は「十分である」「少ない」「利用していない」(ともに66.7%)が最も多くなっています。

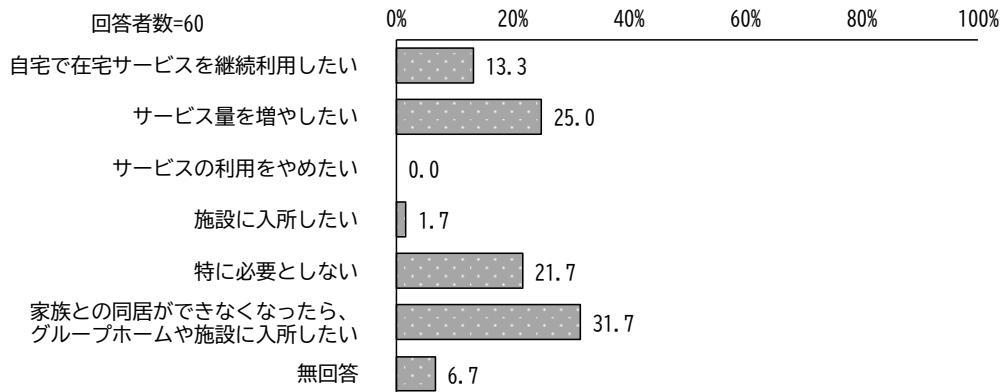
(単位：%)

区分	回答者数(人)	十分である	多い	少ない	利用していない	無回答
全体	84	41.7	1.2	28.6	25.0	3.6
身体障害者	15	26.7	-	46.7	20.0	6.7
知的障害者	59	49.2	1.7	28.8	16.9	3.4
精神障害者	9	44.4	-	22.2	33.3	-
難病患者	3	33.3	-	33.3	33.3	-

【問30で「1.」～「3.」のいずれかを選択した方に伺います。】

問31 今後、サービスをどのように利用したいですか。(1つに○)

今後、サービスをどのように利用したいかについては、「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」の割合が31.7%と最も多く、次いで「サービス量を増やしたい」の割合が25.0%、「特に必要としない」の割合が21.7%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者は「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」(順に54.5%、38.3%)、精神障害者は「自宅で在宅サービスを継続利用したい」(50.0%)、難病患者は「自宅で在宅サービスを継続利用したい」、「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」(ともに50.0%)が最も多くなっています。

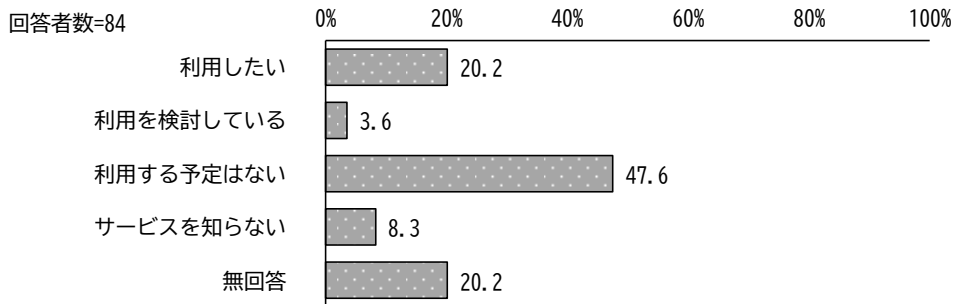
(単位：%)

区分	回答者数(人)	自宅で在宅サービスを継続利用したい	サービス量を増やしたい	サービスの利用をやめたい	施設に入所したい	特に必要としない	家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい	無回答
全体	60	13.3	25.0	-	1.7	21.7	31.7	6.7
身体障害者	11	18.2	27.3	-	-	-	54.5	-
知的障害者	47	6.4	21.3	-	2.1	25.5	38.3	6.4
精神障害者	6	50.0	16.7	-	-	16.7	16.7	-
難病患者	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-

問 32 次のサービスを、今後（新たに、または引き続き）利用したいと思いますか。
（それぞれ1つに○）

① 児童発達支援

児童発達支援については、「利用する予定はない」の割合が47.6%と最も多く、次いで「利用したい」の割合が20.2%、「サービスを知らない」の割合が8.3%となっています。



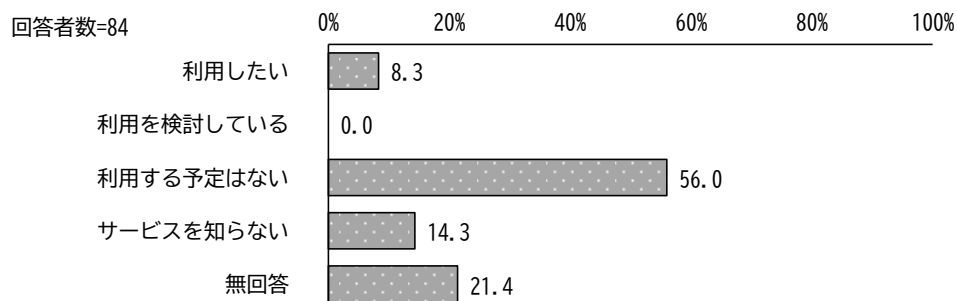
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	20.2	3.6	47.6	8.3	20.2
身体障害者	15	6.7	6.7	60.0	6.7	20.0
知的障害者	59	23.7	-	47.5	8.5	20.3
精神障害者	9	22.2	11.1	33.3	11.1	22.2
難病患者	3	-	33.3	33.3	-	33.3

② 医療型児童発達支援

医療型児童発達支援については、「利用する予定はない」の割合が56.0%と最も多く、次いで「サービスを知らない」の割合が14.3%、「利用したい」の割合が8.3%となっています。



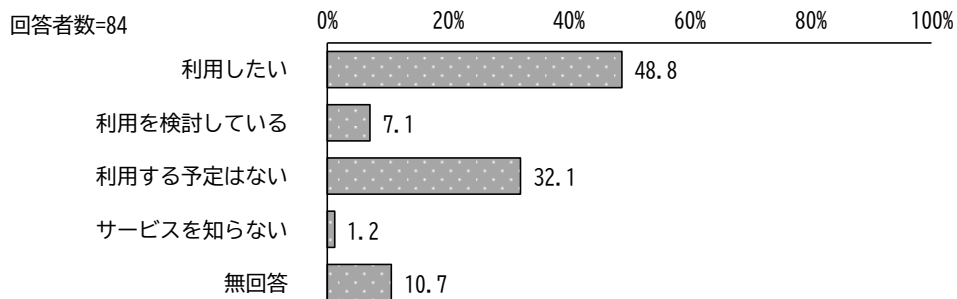
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	8.3	-	56.0	14.3	21.4
身体障害者	15	13.3	-	53.3	13.3	20.0
知的障害者	59	5.1	-	57.6	15.3	22.0
精神障害者	9	11.1	-	44.4	22.2	22.2
難病患者	3	33.3	-	33.3	-	33.3

③放課後等デイサービス

放課後等デイサービスについては、「利用したい」の割合が48.8%と最も多く、次いで「利用する予定はない」の割合が32.1%、「利用を検討している」の割合が7.1%となっています。



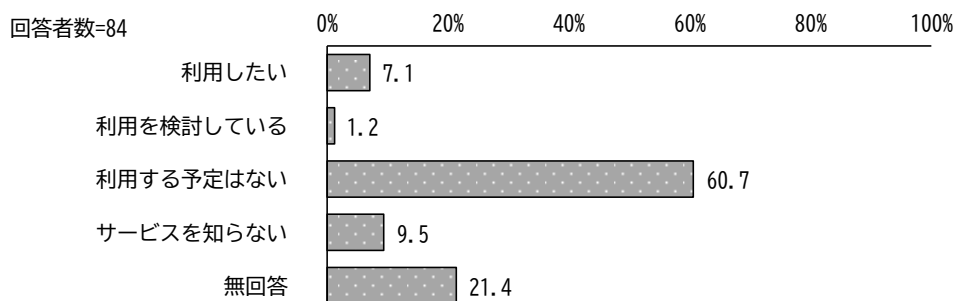
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	48.8	7.1	32.1	1.2	10.7
身体障害者	15	46.7	13.3	20.0	-	20.0
知的障害者	59	62.7	5.1	23.7	-	8.5
精神障害者	9	33.3	-	44.4	-	22.2
難病患者	3	-	33.3	33.3	-	33.3

④保育所等訪問支援

保育所等訪問支援については、「利用する予定はない」の割合が60.7%と最も多く、次いで「サービスを知らない」の割合が9.5%、「利用したい」の割合が7.1%となっています。



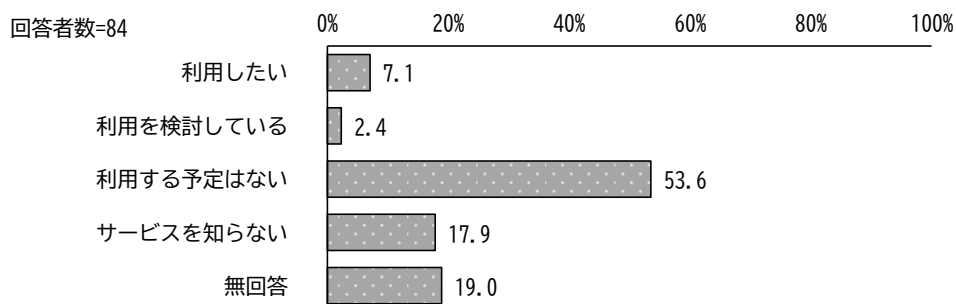
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	7.1	1.2	60.7	9.5	21.4
身体障害者	15	-	6.7	60.0	13.3	20.0
知的障害者	59	6.8	-	61.0	10.2	22.0
精神障害者	9	11.1	-	55.6	11.1	22.2
難病患者	3	-	33.3	33.3	-	33.3

⑤居宅訪問型児童発達支援

居宅訪問型児童発達支援については、「利用する予定はない」の割合が53.6%と最も多く、次いで「サービスを知らない」の割合が17.9%、「利用したい」の割合が7.1%となっています。



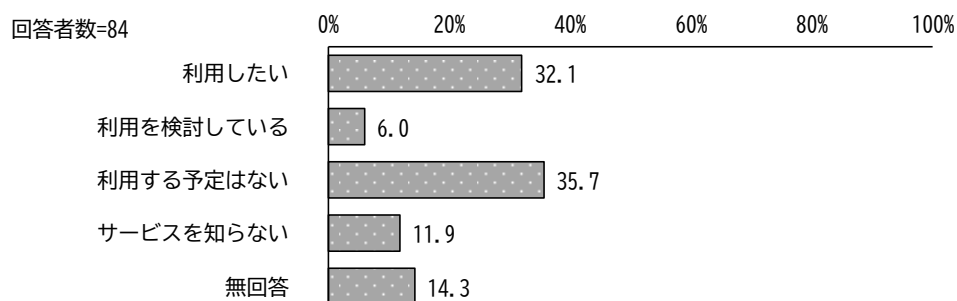
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	7.1	2.4	53.6	17.9	19.0
身体障害者	15	6.7	13.3	40.0	20.0	20.0
知的障害者	59	8.5	-	50.8	22.0	18.6
精神障害者	9	-	-	66.7	22.2	11.1
難病患者	3	-	33.3	33.3	-	33.3

⑥障害児相談支援

障害児相談支援については、「利用する予定はない」の割合が35.7%と最も多く、次いで「利用したい」の割合が32.1%、「サービスを知らない」の割合が11.9%となっています。



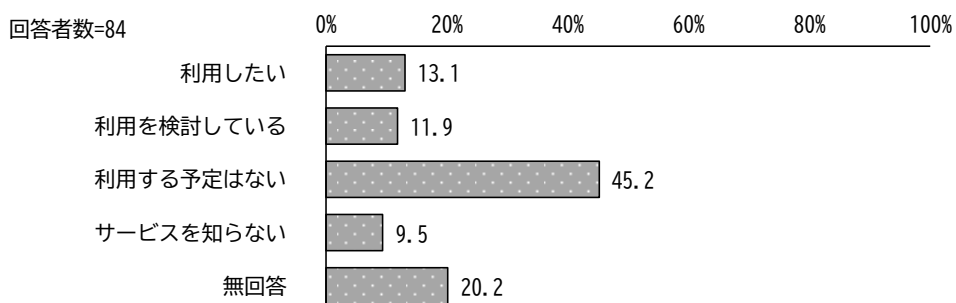
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	32.1	6.0	35.7	11.9	14.3
身体障害者	15	33.3	13.3	13.3	20.0	20.0
知的障害者	59	37.3	3.4	33.9	11.9	13.6
精神障害者	9	55.6	-	33.3	-	11.1
難病患者	3	-	-	33.3	33.3	33.3

⑦施設入所

施設入所については、「利用する予定はない」の割合が45.2%と最も多く、次いで「利用したい」の割合が13.1%、「利用を検討している」の割合が11.9%となっています。



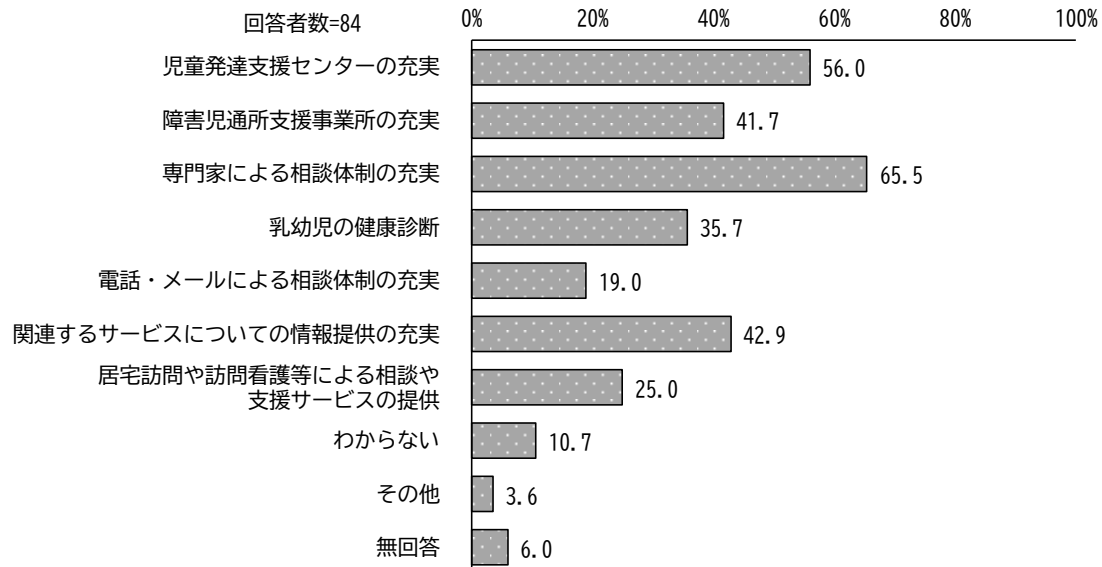
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	利用したい	利用を検討している	利用する予定はない	サービスを知らない	無回答
全体	84	13.1	11.9	45.2	9.5	20.2
身体障害者	15	20.0	20.0	26.7	13.3	20.0
知的障害者	59	18.6	13.6	39.0	8.5	20.3
精神障害者	9	11.1	-	66.7	11.1	11.1
難病患者	3	-	33.3	33.3	-	33.3

問 33 発達に関する不安や障害のあるお子さんが、早期に適切な支援を受けるために必要なことは何だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

発達に関する不安や障害のあるお子さんが、早期に適切な支援を受けるために必要なことについては、「専門家による相談体制の充実」の割合が 65.5%と最も多く、次いで「児童発達支援センターの充実」の割合が 56.0%、「関連するサービスについての情報提供の充実」の割合が 42.9%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「専門家による相談体制の充実」(順に 53.3%、69.5%、88.9%)、難病患者は「関連するサービスについての情報提供の充実」(100.0%)が最も多くなっています。

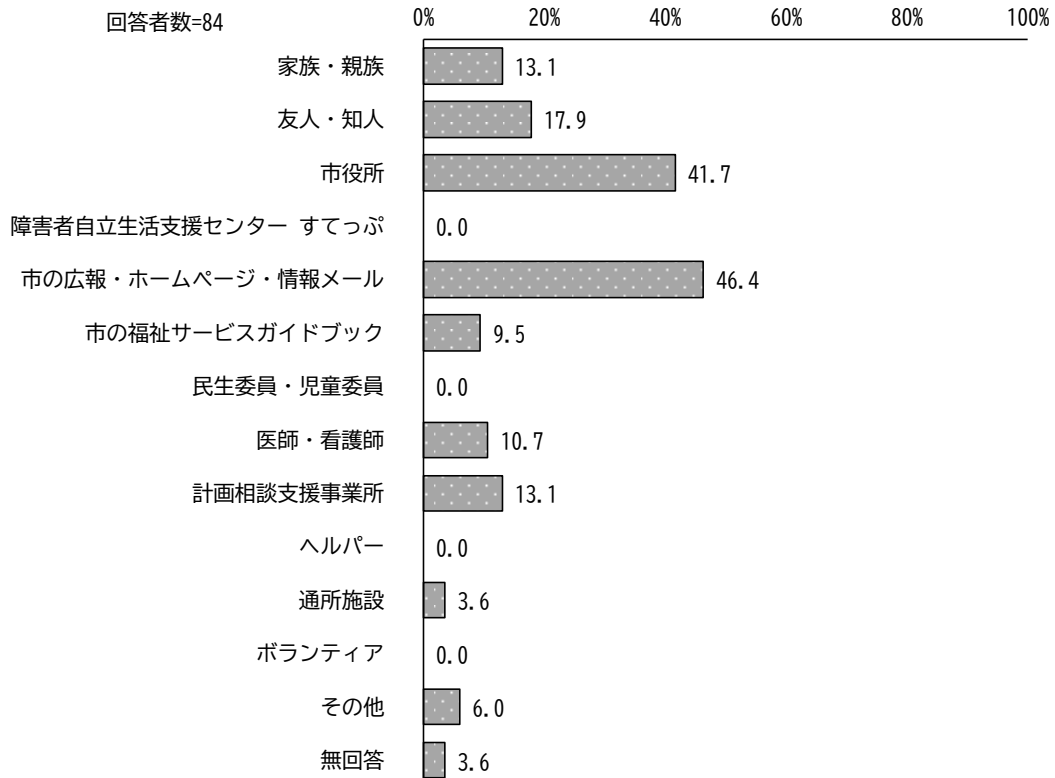
(単位：%)

区分	回答者数(人)	児童発達支援センターの充実	障害児通所支援事業所の充実	専門家による相談体制の充実	乳幼児の健康診断	電話・メールによる相談体制の充実	関連するサービスについての情報提供の充実	居宅訪問や支援サービス等の提供	わからない	その他	無回答
全体	84	56.0	41.7	65.5	35.7	19.0	42.9	25.0	10.7	3.6	6.0
身体障害者	15	40.0	40.0	53.3	26.7	6.7	40.0	20.0	13.3	6.7	6.7
知的障害者	59	59.3	47.5	69.5	40.7	20.3	50.8	27.1	6.8	3.4	3.4
精神障害者	9	66.7	44.4	88.9	55.6	22.2	44.4	44.4	11.1	-	11.1
難病患者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	100.0	33.3	-	33.3	-

問 34 市の行事、福祉、保健に関することは、主に何で知りましたか。

(あてはまる番号すべてに○)

市の行事、福祉、保健に関する情報については、「市の広報・ホームページ・情報メール」の割合が46.4%と最も多く、次いで「市役所」の割合が41.7%、「家族・親族」、「計画相談支援事業所」の割合が13.1%となっています。



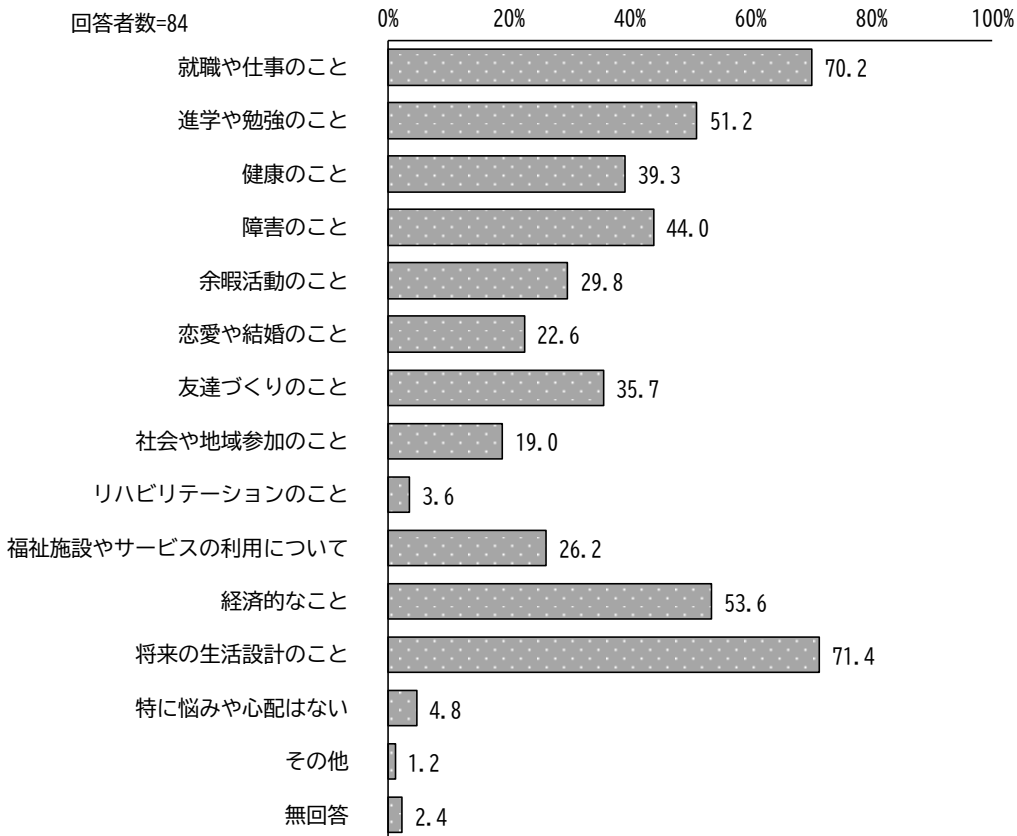
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	家族・親族	友人・知人	市役所	障害者自立生活支援センター すてっぴ	市の広報・ホームページ・情報メール	市の福祉サービスガイドブック	民生委員・児童委員	医師・看護師	計画相談支援事業所	ヘルパー	通所施設	ボランティア	その他	無回答
全体	84	13.1	17.9	41.7	-	46.4	9.5	-	10.7	13.1	-	3.6	-	6.0	3.6
身体障害者	15	6.7	20.0	40.0	-	46.7	6.7	-	13.3	6.7	-	13.3	-	13.3	-
知的障害者	59	15.3	11.9	45.8	-	52.5	10.2	-	5.1	15.3	-	3.4	-	6.8	1.7
精神障害者	9	-	22.2	22.2	-	44.4	22.2	-	11.1	11.1	-	-	-	-	11.1
難病患者	3	-	33.3	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-

問 35 お子さんのことであなたが悩んでいること、心配に思うことはありますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

お子さんのことに関する悩みや不安については、「将来の生活設計のこと」の割合が71.4%と最も多く、次いで「就職や仕事のこと」の割合が70.2%、「経済的なこと」の割合が53.6%となっています。



【障害種別】

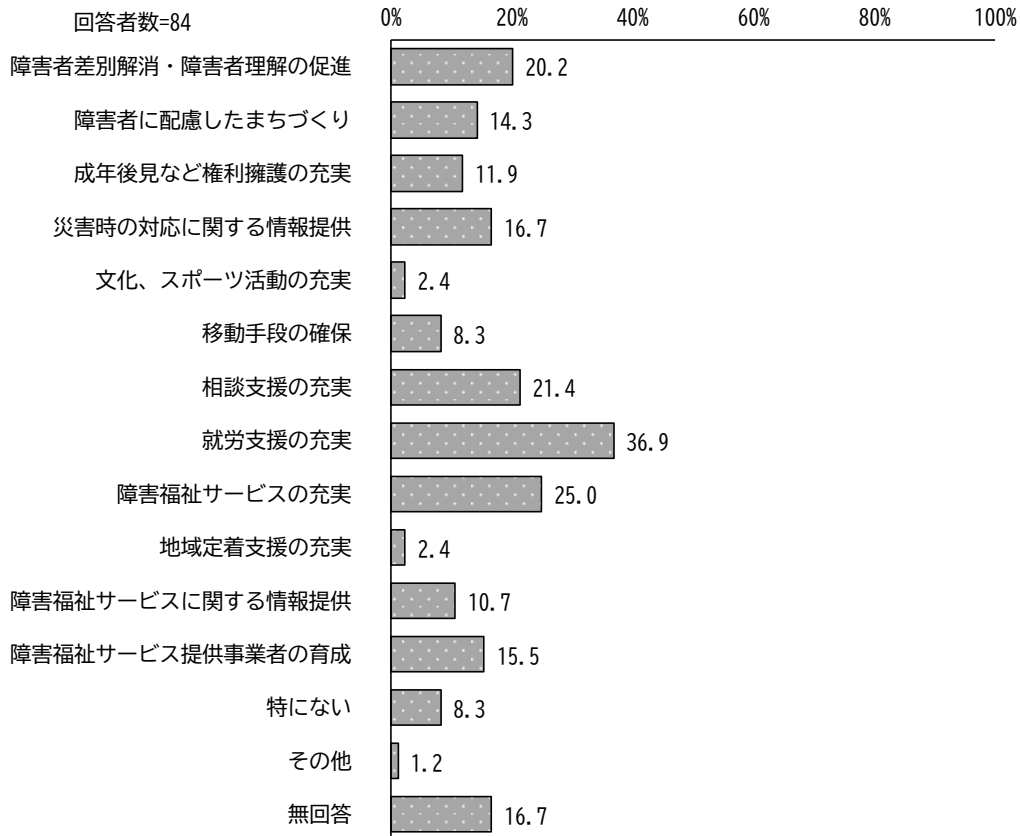
障害種別にみると、身体障害者、難病患者は「経済的なこと」(順に80.0%、100.0%)、知的障害者、精神障害者は「将来の生活設計のこと」(順に78.0%、88.9%)が最も多くなっています。

(単位: %)

区分	回答者数(人)	就職や仕事のこと	進学や勉強のこと	健康のこと	障害のこと	余暇活動のこと	恋愛や結婚のこと	友達づくりのこと	社会や地域参加のこと	リハビリテーションのこと	福祉施設やサービスの利用について	経済的なこと	将来の生活設計のこと	特に悩みや心配はない	その他	無回答
全体	84	70.2	51.2	39.3	44.0	29.8	22.6	35.7	19.0	3.6	26.2	53.6	71.4	4.8	1.2	2.4
身体障害者	15	40.0	33.3	46.7	53.3	20.0	-	20.0	13.3	13.3	33.3	80.0	60.0	6.7	6.7	-
知的障害者	59	74.6	45.8	33.9	40.7	33.9	23.7	35.6	23.7	1.7	27.1	54.2	78.0	3.4	-	-
精神障害者	9	77.8	77.8	33.3	33.3	33.3	44.4	44.4	22.2	11.1	22.2	55.6	88.9	-	-	11.1
難病患者	3	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	66.7	100.0	66.7	-	-	-

問 36 今後、市に何を期待しますか。(あてはまる番号3つまでに○)

今後、市に期待することについては、「就労支援の充実」の割合が36.9%と最も多く、次いで「障害福祉サービスの充実」の割合が25.0%、「相談支援の充実」の割合が21.4%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「災害時の対応に関する情報提供」、「障害福祉サービスの充実」（ともに40.0%）、知的障害者は「就労支援の充実」（45.8%）、精神障害者は「障害者差別解消・障害者理解の促進」「相談支援の充実」（ともに22.2%）、難病患者は「障害者に配慮したまちづくり」、「就労支援の充実」、「障害福祉サービスの充実」、「障害福祉サービス提供事業者の育成」（ともに66.7%）が最も多くなっています。

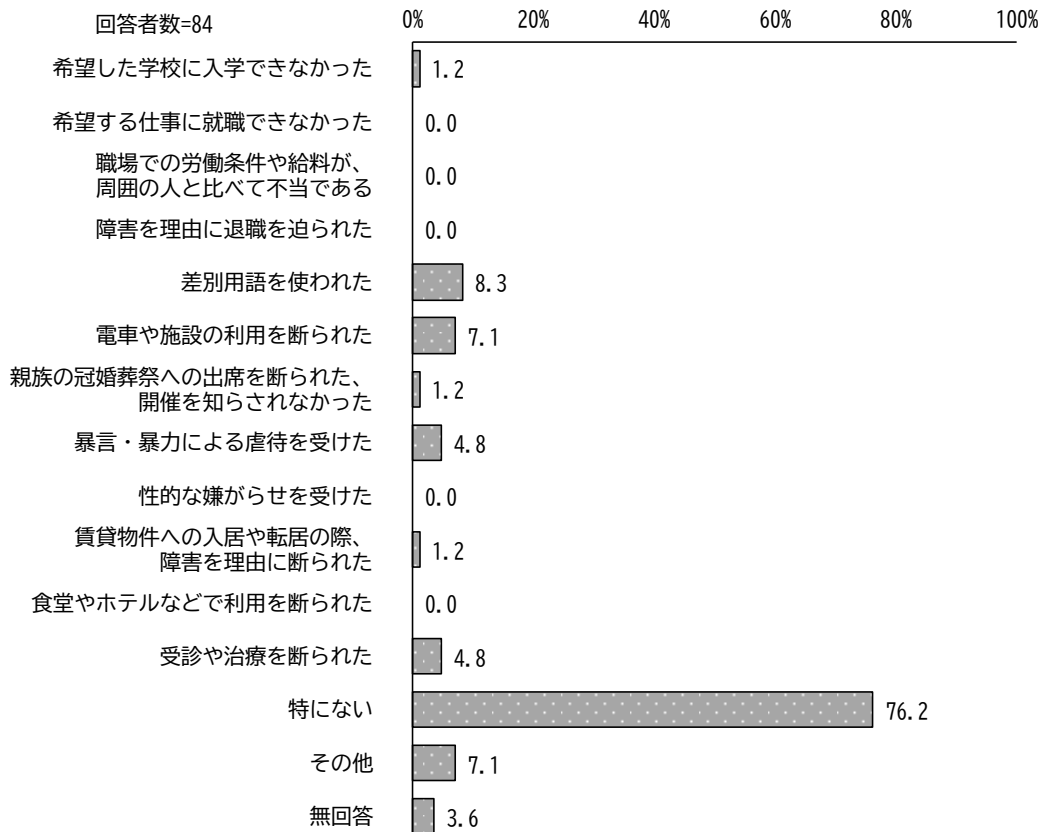
(単位：%)

区分	回答者数(人)	障害者差別解消の促進	障害者に配慮したまちづくり	成年後見など権利擁護の充実	災害時の情報提供	文化、スポーツ活動の充実	移動手段の確保	相談支援の充実	就労支援の充実	障害福祉サービスの充実	地域定着支援の充実	障害福祉サービスに関する情報提供	障害福祉サービス提供事業者の育成	特にない	その他	無回答
全体	84	20.2	14.3	11.9	16.7	2.4	8.3	21.4	36.9	25.0	2.4	10.7	15.5	8.3	1.2	16.7
身体障害者	15	20.0	26.7	13.3	40.0	-	20.0	13.3	26.7	40.0	6.7	26.7	20.0	-	-	-
知的障害者	59	22.0	11.9	15.3	15.3	1.7	6.8	23.7	45.8	30.5	1.7	8.5	11.9	8.5	1.7	13.6
精神障害者	9	22.2	-	-	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-	55.6
難病患者	3	-	66.7	-	-	-	-	-	66.7	66.7	-	33.3	66.7	-	-	-

(8) 権利擁護について

問 37 お子さんは障害または難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

人権を損なう扱いを受けた経験については、「特にない」の割合が76.2%と最も多く、次いで「差別用語が使われた」の割合が8.3%、「電車や施設の利用を断られた」の割合が7.1%となっています。



【障害種別】

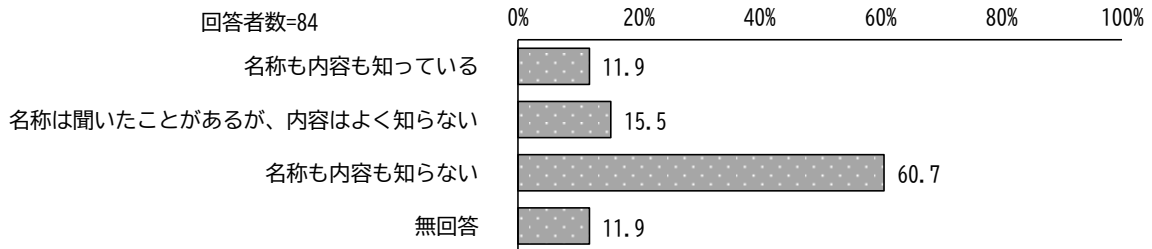
(単位：%)

区分	回答者数 (人)	希望した学校に入学できなかった	希望する仕事に就職できなかった	職場での労働条件や給料が、周囲の人と比べて不当である	障害を理由に退職を迫られた	差別用語が使われた	電車や施設の利用を断られた	親族の冠婚葬祭への出席を断られた、開催を知らされなかった	暴言・暴力による虐待を受けた	性的な嫌がらせを受けた	賃貸物件への入居や転居の際、障害を理由に断られた	食堂やホテルなどで利用を断られた	受診や治療を断られた	特にない	その他	無回答
全体	84	1.2	-	-	-	8.3	7.1	1.2	4.8	-	1.2	-	4.8	76.2	7.1	3.6
身体障害者	15	6.7	-	-	-	13.3	13.3	6.7	6.7	-	-	-	13.3	60.0	6.7	6.7
知的障害者	59	-	-	-	-	6.8	10.2	1.7	6.8	-	1.7	-	6.8	78.0	6.8	1.7
精神障害者	9	-	-	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	88.9	11.1	-
難病患者	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-

問 38 判断能力が十分でない方の権利を守る事業として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」がありますが、ご存じでしたか。(それぞれ1つに○)

①地域福祉権利擁護事業

地域福祉権利擁護については、「名称も内容も知らない」の割合が60.7%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」の割合が15.5%、「名称も内容も知っている」の割合が11.9%となっています。



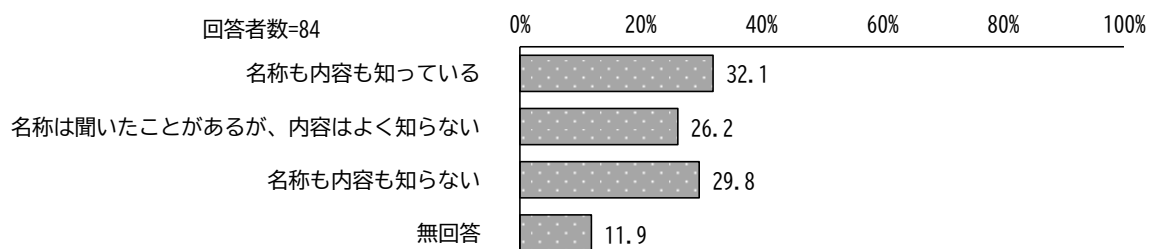
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	名称も内容も知っている	名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	84	11.9	15.5	60.7	11.9
身体障害者	15	13.3	6.7	66.7	13.3
知的障害者	59	11.9	18.6	61.0	8.5
精神障害者	9	22.2	-	66.7	11.1
難病患者	3	-	-	100.0	-

②成年後見制度

成年後見制度については、「名称も内容も知っている」の割合が32.1%と最も多く、次いで「名称も内容も知らない」の割合が29.8%、「名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」の割合が26.2%となっています。



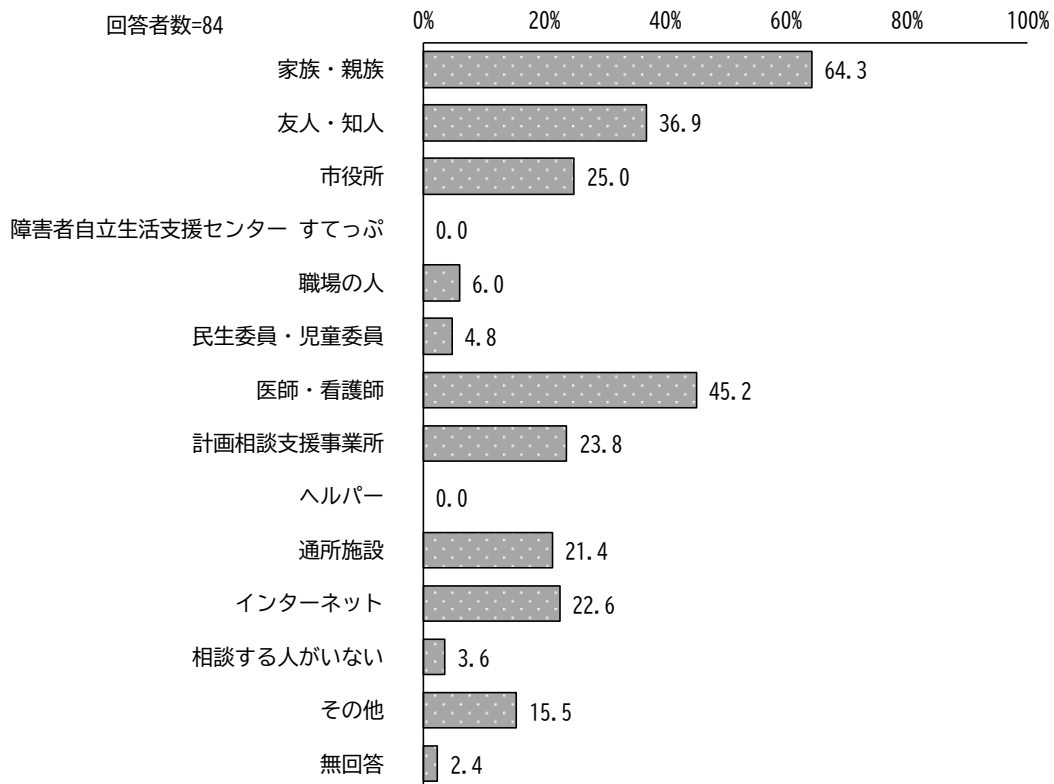
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	名称も内容も知っている	名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	84	32.1	26.2	29.8	11.9
身体障害者	15	33.3	20.0	33.3	13.3
知的障害者	59	32.2	30.5	28.8	8.5
精神障害者	9	55.6	22.2	11.1	11.1
難病患者	3	33.3	-	66.7	-

問 39 あなたや支援者が、子どものことでの悩みや困ったことを相談するのは誰（どこ）ですか。（あてはまる番号すべてに○）

お子さんのことに関する悩みや困りごとの相談相手については、「家族・親族」の割合が64.3%と最も多く、次いで「医師・看護師」の割合が45.2%、「友人・知人」の割合が36.9%となっています。



【障害種別】

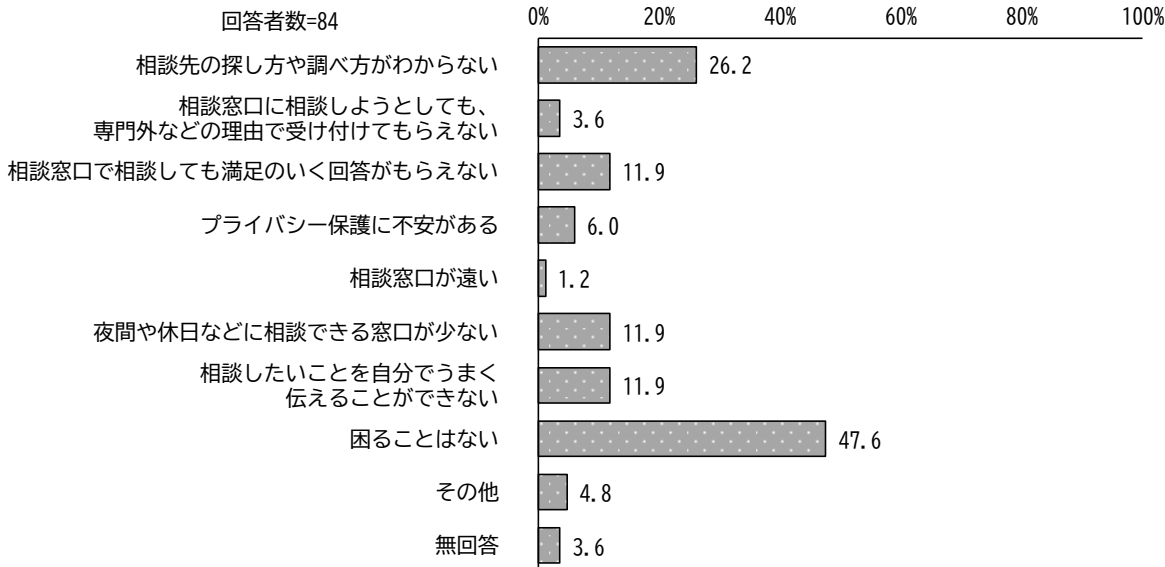
障害種別にみると、身体障害者は「家族・親族」、「医師・看護師」、「計画相談支援事業所」（ともに40.0%）、知的障害者、難病患者は「家族・親族」（順に67.8%、100.0%）、精神障害者は「友人・知人」（77.8%）が最も多くなっています。

（単位：%）

区分	回答者数（人）	家族・親族	友人・知人	市役所	障害者自立生活支援センター	職場の人	民生委員・児童委員	医師・看護師	計画相談支援事業所	ヘルパー	通所施設	インターネット	相談する人がいない	その他	無回答
全体	84	64.3	36.9	25.0	-	6.0	4.8	45.2	23.8	-	21.4	22.6	3.6	15.5	2.4
身体障害者	15	40.0	20.0	26.7	-	-	-	40.0	40.0	-	20.0	20.0	-	20.0	6.7
知的障害者	59	67.8	33.9	18.6	-	3.4	5.1	37.3	23.7	-	27.1	18.6	5.1	16.9	1.7
精神障害者	9	66.7	77.8	66.7	-	33.3	-	66.7	44.4	-	22.2	55.6	-	33.3	-
難病患者	3	100.0	33.3	66.7	-	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-

問 40 相談について、困ることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

相談について、困ることは、「困ることはない」の割合が47.6%と最も多く、次いで「相談先の探し方や調べ方がわからない」の割合が26.2%、「相談窓口で相談しても満足いく回答がもらえない」、「夜間や休日などに相談できる窓口が少ない」、「相談したいことを自分でうまく伝えることができない」の割合がともに11.9%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「相談窓口で相談しても満足いく回答がもらえない」、「困ることはない」（ともに33.3%）、知的障害者は「困ることはない」（54.2%）、精神障害者は「相談先の探し方や調べ方がわからない」（44.4%）、難病患者は「相談先の探し方や調べ方がわからない」、「相談窓口で相談しても満足いく回答がもらえない」（ともに66.7%）が最も多くなっています。

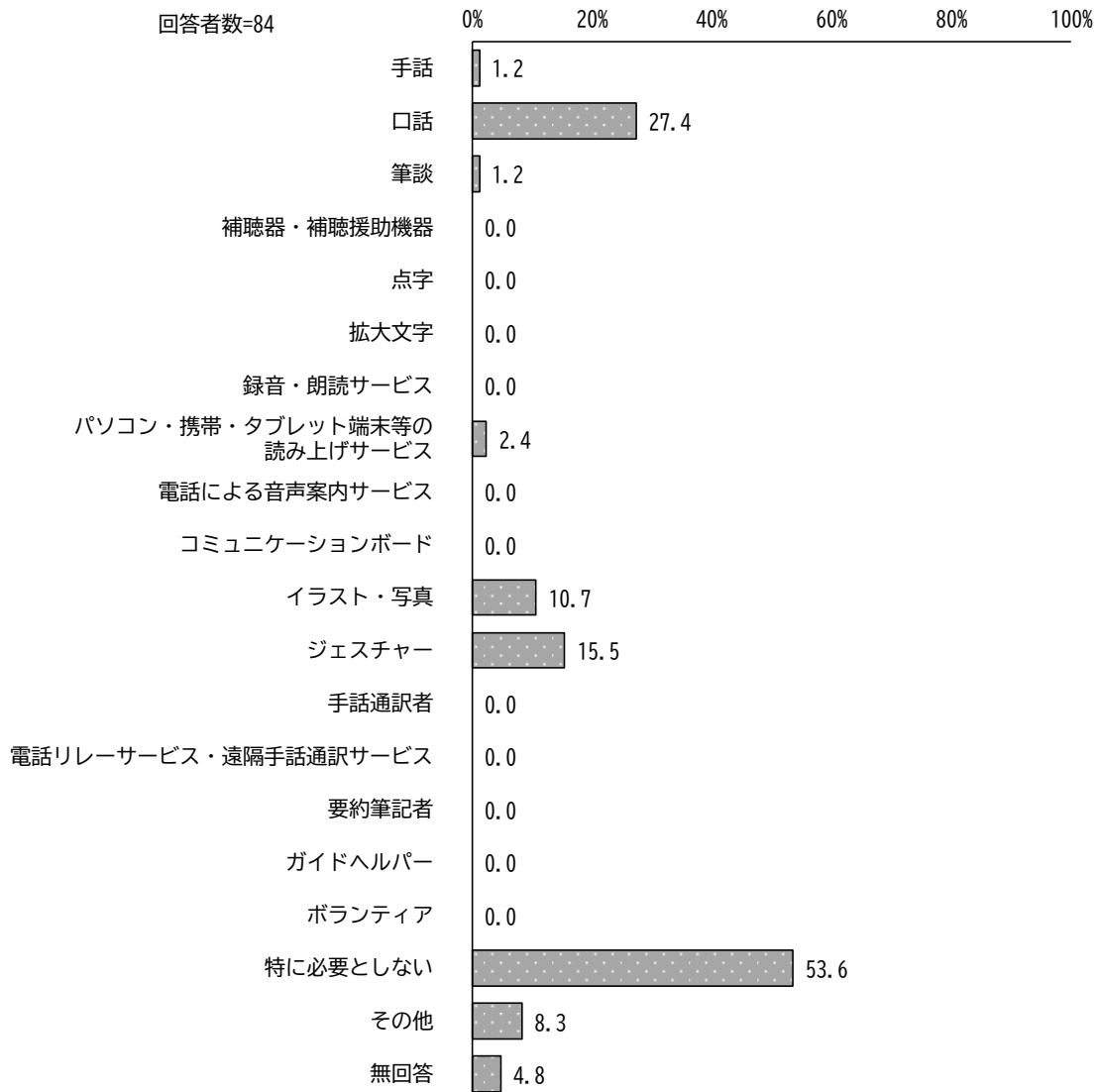
(単位：%)

区分	回答者数(人)	相談先の探し方や調べ方がわからない	相談窓口で相談しようとしても、専門外などの理由で受け付けてもらえない	相談窓口で相談しても満足いく回答がもらえない	プライバシー保護に不安がある	相談窓口が遠い	夜間や休日などに相談できる窓口が少ない	相談したいことを自分でうまく伝えることができない	困ることはない	その他	無回答
全体	84	26.2	3.6	11.9	6.0	1.2	11.9	11.9	47.6	4.8	3.6
身体障害者	15	13.3	6.7	33.3	13.3	-	6.7	26.7	33.3	-	13.3
知的障害者	59	25.4	1.7	11.9	3.4	-	8.5	10.2	54.2	5.1	1.7
精神障害者	9	44.4	-	-	11.1	-	33.3	22.2	33.3	-	-
難病患者	3	66.7	33.3	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-

(9) 情報の入手やコミュニケーションについて

問 41 お子さんは、家族、親族、知人、支援者とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段、支援を利用していますか。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんが必要とするコミュニケーションの支援については、「特に必要としない」の割合が53.6%と最も多く、次いで「口話」の割合が27.4%、「ジェスチャー」の割合が15.5%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「特に必要としない」（順に 53.3%、47.5%、66.7%）、難病患者は「口話」（66.7%）が最も多くなっています。

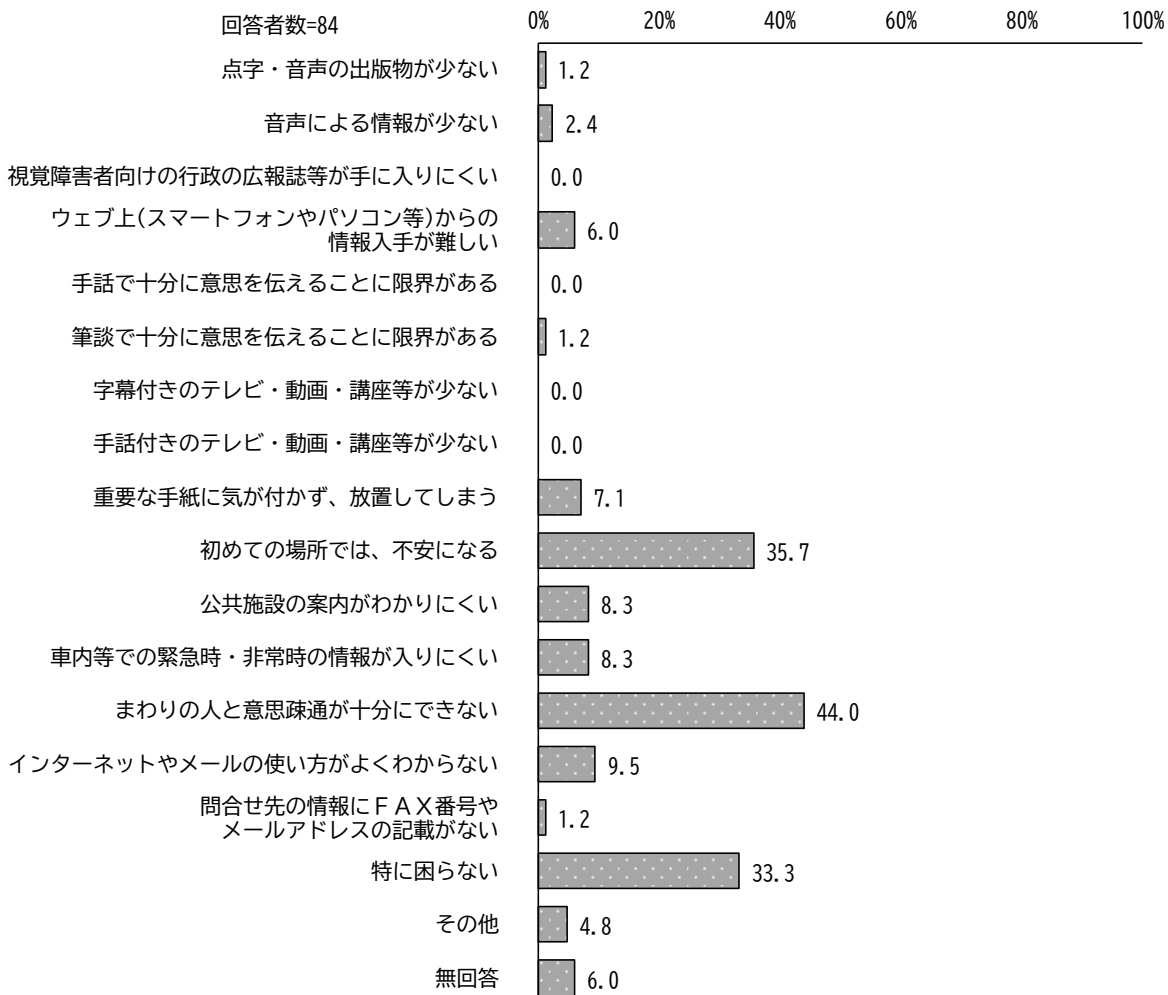
（単位：％）

区分	回答者数（人）	手話	口話	筆談	補聴器・補聴援助機器	点字	拡大文字	録音・朗読サービス	パソコン・携帯・タブレット端末等の読み上げサービス	電話による音声案内サービス	コミュニケーションボード
全体	84	1.2	27.4	1.2	-	-	-	-	2.4	-	-
身体障害者	15	-	13.3	-	-	-	-	-	-	-	-
知的障害者	59	1.7	33.9	1.7	-	-	-	-	1.7	-	-
精神障害者	9	-	22.2	-	-	-	-	-	11.1	-	-
難病患者	3	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-

区分	イラスト・写真	ジェスチャー	手話通訳者	電話リレーサービス・遠隔手話通訳サービス	要約筆記者	ガイドヘルパー	ボランティア	特に必要としない	その他	無回答
全体	10.7	15.5	-	-	-	-	-	53.6	8.3	4.8
身体障害者	6.7	13.3	-	-	-	-	-	53.3	13.3	6.7
知的障害者	15.3	20.3	-	-	-	-	-	47.5	8.5	1.7
精神障害者	11.1	-	-	-	-	-	-	66.7	-	11.1
難病患者	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-

問 42 お子さんが情報を入手する際や、コミュニケーションをとる際に困ることについて
お答えください。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんが情報を入手する際や、コミュニケーションをとる際に不便に思うことについては、「まわりの人と意思疎通が十分できない」の割合が44.0%と最も多く、次いで「初めての場所では、不安になる」の割合が35.7%、「特に困らない」の割合が33.3%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「まわりの人と意思疎通が十分できない」（順に40.0%、50.8%、55.6%）、難病患者は「特に困らない」（66.7%）が最も多くなっています。

(単位：%)

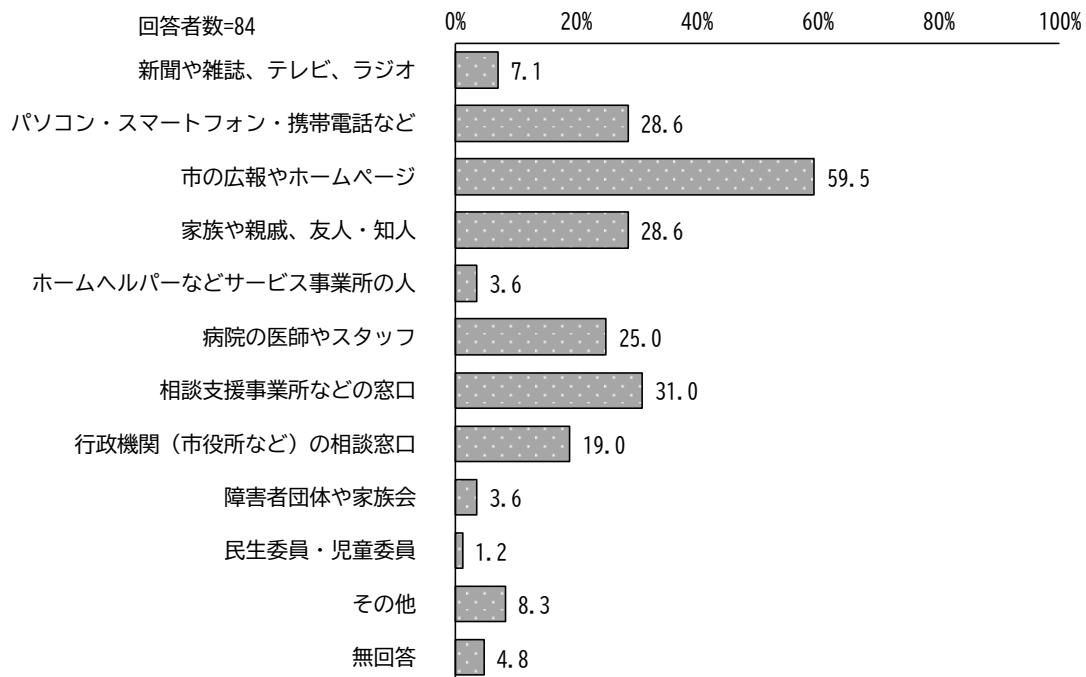
区分	回答者数（人）	点字・音声の出版物が少ない	音声による情報が少ない	視覚障害者向けの行政の広報誌等が手に入りにくい	ウェブ上（スマートフォンやパソコン等）からの情報入手が難しい	手話で十分に意思を伝えることに限界がある	筆談で十分に意思を伝えることに限界がある	字幕付きのテレビ・動画・講座等が少ない	手話付きのテレビ・動画・講座等が少ない	重要な手紙に気が付かず、放置してしまう
全体	84	1.2	2.4	-	6.0	-	1.2	-	-	7.1
身体障害者	15	-	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-
知的障害者	59	-	3.4	-	8.5	-	1.7	-	-	8.5
精神障害者	9	-	-	-	11.1	-	11.1	-	-	22.2
難病患者	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-

区分	初めての場所では、不安になる	公共施設の案内がわかりにくい	車内等での緊急時・非常時の情報が入りにくい	まわりの人と意思疎通が十分にできない	インターネットやメールの使い方がよくわからない	問合せ先の情報にFAX番号やメールアドレスの記載がない	特に困らない	その他	無回答
全体	35.7	8.3	8.3	44.0	9.5	1.2	33.3	4.8	6.0
身体障害者	20.0	20.0	13.3	40.0	13.3	6.7	33.3	6.7	13.3
知的障害者	45.8	10.2	10.2	50.8	13.6	1.7	28.8	3.4	1.7
精神障害者	44.4	-	11.1	55.6	11.1	-	22.2	11.1	11.1
難病患者	-	-	-	33.3	-	-	66.7	33.3	-

問 43 福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。

(あてはまる番号すべてに○)

福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いかについては、「市の広報やホームページ」の割合が59.5%と最も多く、次いで「相談支援事業所などの窓口」の割合が31.0%、「パソコン・スマートフォン・携帯電話など」、「家族や親戚、友人・知人」の割合がともに28.6%となっています。



【障害種別】

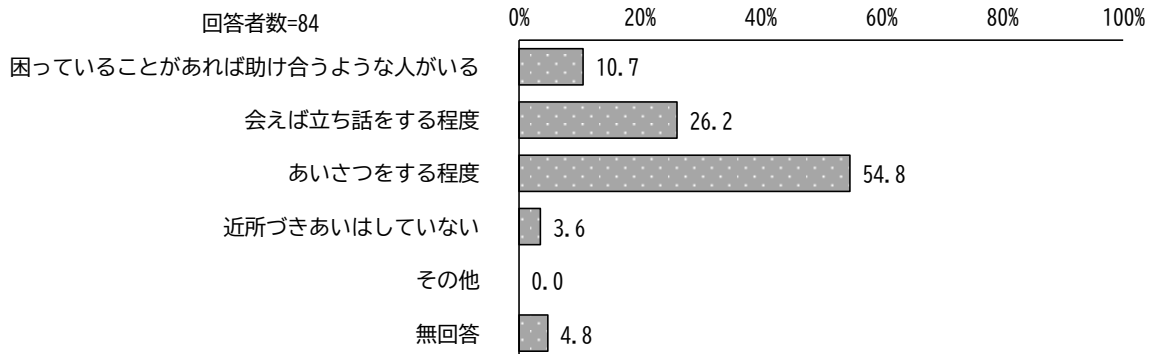
障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「市の広報やホームページ」（順に73.3%、59.3%、66.7%）、難病患者は「市の広報やホームページ」、「家族や親戚、友人・知人」、「病院の医師やスタッフ」（ともに66.7%）が最も多くなっています。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	新聞や雑誌、テレビ、ラジオ	パソコン・スマートフォン・携帯電話など	市の広報やホームページ	家族や親戚、友人・知人	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	病院の医師やスタッフ	相談支援事業所などの窓口	行政機関（市役所など）の相談窓口	障害者団体や家族会	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体	84	7.1	28.6	59.5	28.6	3.6	25.0	31.0	19.0	3.6	1.2	8.3	4.8
身体障害者	15	13.3	26.7	73.3	33.3	13.3	46.7	33.3	6.7	6.7	-	6.7	6.7
知的障害者	59	8.5	25.4	59.3	28.8	3.4	13.6	32.2	20.3	3.4	1.7	8.5	3.4
精神障害者	9	-	44.4	66.7	33.3	-	55.6	44.4	55.6	11.1	-	11.1	-
難病患者	3	33.3	33.3	66.7	66.7	-	66.7	-	-	-	-	-	-

問 44 あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(1つに○)

近所づきあいをどの程度しているかについては、「あいさつをする程度」の割合が54.8%と最も多く、次いで「会えば立ち話をする程度」の割合が26.2%、「困っていることがあれば助け合うような人がある」の割合が10.7%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体障害者は「あいさつをする程度」(順に80.0%、55.9%)、精神障害者は「会えば立ち話をする程度」、「あいさつをする程度」(ともに44.4%)、難病患者は「会えば立ち話をする程度」(66.7%)が最も多くなっています。

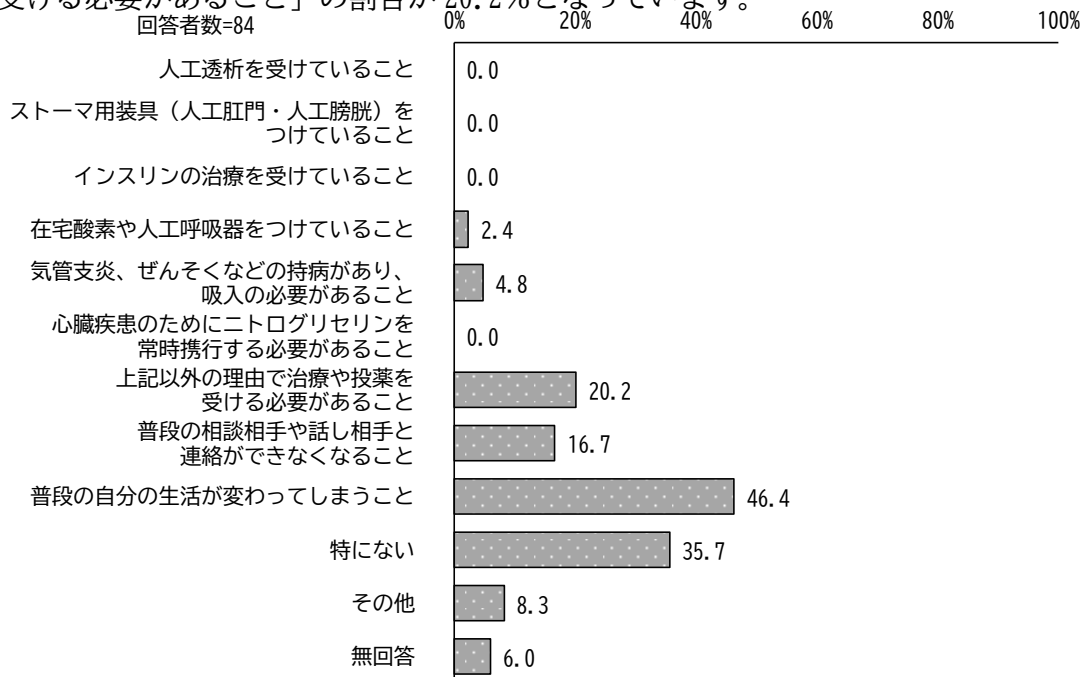
(単位：%)

区分	回答者数(人)	困っていることがあれば助け合うような人がある	会えば立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはしていない	その他	無回答
全体	84	10.7	26.2	54.8	3.6	-	4.8
身体障害者	15	6.7	13.3	80.0	-	-	-
知的障害者	59	10.2	27.1	55.9	5.1	-	1.7
精神障害者	9	11.1	44.4	44.4	-	-	-
難病患者	3	-	66.7	33.3	-	-	-

(10) 災害時の対応について

問 45 災害発生時、数日間医療機関や福祉サービス等を利用できないことが想定されますが、お子さんの心身の健康面や生活面で困ることについて、どのようなことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

災害発生の際に健康面や生活面で困ることについては、「普段の自分の生活が変わってしまうこと」の割合が46.4%と最も多く、次いで「特にない」の割合が35.7%、「上記以外の理由で治療や投薬を受ける必要があること」の割合が20.2%となっています。



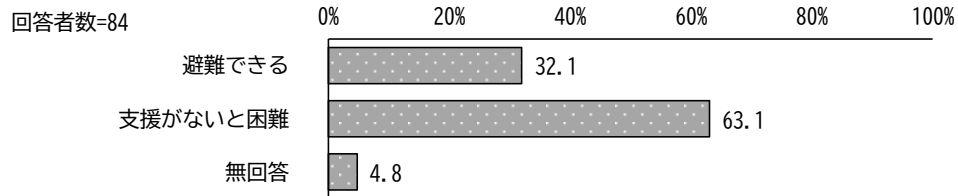
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	人工透析を受けていること	ストーマ用装具(人工肛門・人工膀胱)をつけていること	インスリンの治療を受けていること	在宅酸素や人工呼吸器をつけていること	気管支炎、ぜんそくなどの持病があり、吸入の必要があること	心臓疾患のためにニトログリセリンを常時携帯する必要があること	上記以外の理由で治療や投薬を受ける必要があること	普段の相談相手や話し相手と連絡ができなくなる	普段の自分の生活が変わってしまうこと	特にない	その他	無回答
全体	84	-	-	-	2.4	4.8	-	20.2	16.7	46.4	35.7	8.3	6.0
身体障害者	15	-	-	-	13.3	26.7	-	33.3	20.0	40.0	6.7	20.0	6.7
知的障害者	59	-	-	-	-	-	-	22.0	15.3	52.5	33.9	3.4	3.4
精神障害者	9	-	-	-	-	-	-	11.1	33.3	77.8	22.2	11.1	-
難病患者	3	-	-	-	33.3	33.3	-	66.7	-	-	33.3	-	-

問 46 お子さんは災害発生時に自力で避難することができますか。(1つに○)

災害発生時の自力避難については、「避難できる」の割合が32.1%、「支援がないと困難」の割合が63.1%となっています。



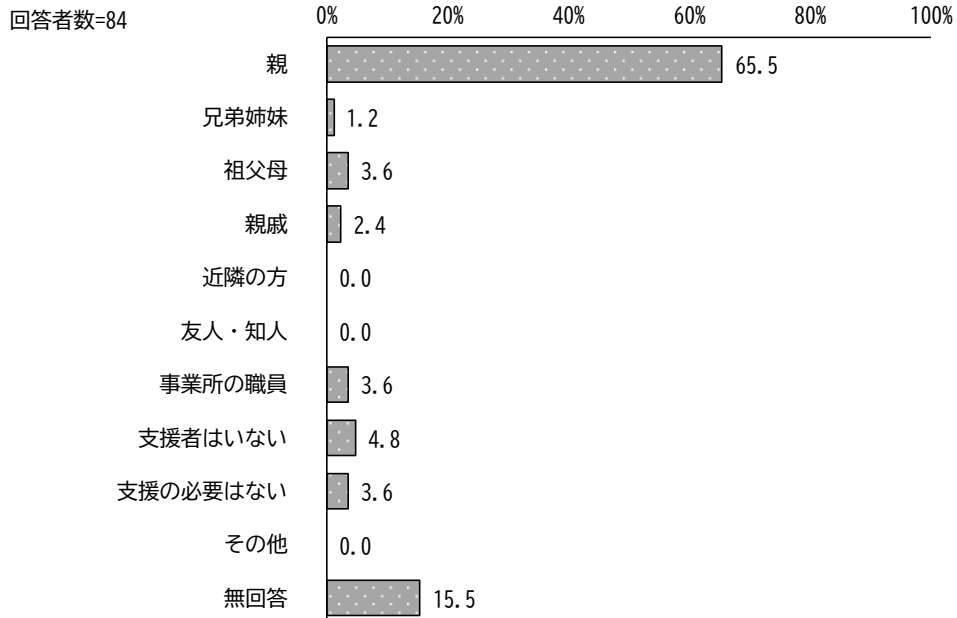
【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数(人)	避難できる	支援がないと困難	無回答
全体	84	32.1	63.1	4.8
身体障害者	15	6.7	93.3	-
知的障害者	59	32.2	64.4	3.4
精神障害者	9	22.2	77.8	-
難病患者	3	66.7	33.3	-

問 47 災害発生に伴う避難時に、お子さんを支援してくれる人は誰ですか。(1つに○)

避難に際してのお子さんの支援者については、「親」の割合が65.5%と最も多く、「支援者はいない」の割合が4.8%、「祖父母」「事業所の職員」「支援の必要はない」の割合がともに3.6%となっています。



【障害種別】

(単位：%)

区分	回答者数 (人)	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚	近隣の方	友人・知人	事業所の職員	支援者はいない	支援の必要はない	その他	無回答
全体	84	65.5	1.2	3.6	2.4	-	-	3.6	4.8	3.6	-	15.5
身体障害者	15	73.3	-	-	-	-	-	6.7	13.3	-	-	6.7
知的障害者	59	72.9	1.7	1.7	-	-	-	5.1	-	3.4	-	15.3
精神障害者	9	44.4	-	-	22.2	-	-	-	11.1	-	-	22.2
難病患者	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(11) 自由意見について

問 48 市の障害福祉施策についてご意見やご要望がありましたら記入してください。

自由意見にはのべ 35 件の記述がありました。項目ごとに整理すると以下のとおりです。

項目	件数
障害児に対する支援の充実	6
経済的支援	6
施設サービスに対する要望	3
障害福祉制度・サービスへの謝辞	2
サービスについての情報提供	2
入所施設等の充実	2
交流の場・遊び場の確保	2
その他	2
市職員の障害者に対する対応の充実	1
アンケートについて	1
バス・福祉バスについて	1
就労支援の充実	1
相談体制の充実	1
サービス全般の質・量の不足、推進	1
タクシー券について	1
道路・歩道の整備	1
手続きの簡略化・サポート	1
なし・特になし	1
合計	35

代表的な意見

○障害児に対する支援の充実 6件

- ・市の児童発達支援センターは医療的ケアがあり、重度の障害がある子だと利用しにくいです。重度の子が通いやすいセンターを作って頂けるとうれしいです。発達障害のある子に対する支援は増えているように感じますが、本当に行き場の限られる重度の子が通える場所があると助かります。
- ・市立の学校にも、保育園等と同様の加配制度の導入について、検討していただきたいです。
- ・福生市ではどうにもならないと思いますが、発達障害を見る病院が西多摩地区には少なく、どこもいっばいで、療育を希望しても、すぐに受診できず、リハビリにこぎつけるのに、長い時間がかかった。もし療育の支援を作るなら、専門的な知識を持った人にカリキュラムを作ってもらって支援する方が好ましいと思う。民間の放課後デイサービスも療育をする所はあるが、心理士やOT、ST、PTの専門職の人がいるわけではなく、経験で療育をしているのだが、少し古い考え（支援者が扱いやすいようにしつける）だと、二次障害になりかねないと思う。今の特別支援教育とずれている所もあるので注意が必要だと思う。

○経済的支援 6件

- ・障害に対しての給付を増やして欲しい。
- ・補助金などを入れて欲しいです。
- ・オムツを配達してくれる業者を増やしてほしい。

○施設サービスに対する要望 3件

- ・放課後等デイサービスでは重度を嫌がる傾向がある気がする。受け入れが少ない。そもそも数も少ない。
- ・放課後デイサービスの事業所を増やしてほしい。

○障害福祉制度・サービスへの謝辞 2件

- ・日頃より放課後等デイサービスの存在は大変ありがたく、低料金で利用できること、先生方の対応に大変感謝申し上げます。
- ・いつも現況届提出などの際によくしていただいています。今後どうぞよろしくお願いいたしません。

○サービスについての情報提供 2件

- ・とにかく情報がわかりにくい。パンフレットも障害の等級別にするなど工夫が必要だと思う。
- ・受けられるサービスの情報等を手紙やSNSで発信してほしい。

○交流の場・遊び場の確保 2件

- ・クローン病の患者やその家族と出会う機会がほとんどないため、情報交換ができる場となるような集まりがあると助かります。クローン病の患者だけでは少人数で集まることが難しい場合は、IBD患者など対象者を広げた形でも、地域で交流の場があれば心強いです。
- ・インクルーシブ公園がずっとできたら良いなと思っていましたが、できても何も変わらない事が分かりました。インクルーシブ遊具を置いただけの公園です。遊具が変わっただけで、人の心は何も変わってなく、障がいに対する理解もなく、障がいを持つ親にとってあの公園は何の意味もありません。変わった遊具のあるただの公園です。椅子も少なく、あずまやみたいな暑さをしのぐものもありません。

タイヤのブランコに健常児が思いっきり親に揺らされ乗っている、看板などを見ることもない、見ても意味が分からない、誰もものけものにしないインクルーシブなんて、障がいに理解のない人と一緒ではのけものになるのは確実に障がいのある子の方です。そんなインクルーシブ公園などあっても私達には意味はありません。

障がい者専用（愛の手帳など持っている人のみ）の公園、雨が降ったり暑かったり寒かったりした時の室内がちゃんとある施設を作って下さい。健常者と一緒だとしても行きにくい人がいる事を分かって下さい。何でもかんでも健常者と障がい者を一緒にする必要もない事を分かって下さい。健常者はどこへでも行かれます。正直、障がい者を優先にしてもらいたいくらいです。どこに行っても「すみません」という言葉ばかりの気持ちを分かって下さい。心から親も子供も楽しんで遊べる場所を作って下さい。

○バス・福祉バスについて 1件

- ・免許がないので、小さい頃はベビーカーで拘束すると言うか、コントロールして外出する事が多かったのですが、バスや電車を利用する時に、道が狭くて乗り降りに困った。また、東福生駅にはバリアフリー設備がないので使えなかった。小学生になり、歩けるようになり使いやすくなったが、東福生まで代わりの福祉バスも本数が少なく、長時間待ったり、乗車時間も長いので、小さな子にはつらいと思う。

○就労支援の充実 1件

- ・市内に就労施設（生活介護事業所や就労B型作業所）が少ないので、増やしていただきたい。

○手続きの簡略化・サポート 1件

- ・障害支援の申請を行うまでに、児童相談所、社会福祉協議会、病院、放課後等デイサービス、東京都の窓口など、5か所で手続きを行う必要があり、非常に時間がかかります。また、希望するサービスが受けられない場合もあると思います。受けられない場合は、再度探すことになり、さらに時間を費やすこととなります。そのため、市役所内の一部に東京都の窓口も設置されると助かります。福祉関係の制度は複雑で、認定も難しい点があるとは思いますが、申請者としてはスムーズに手続きができることを望みます。